

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事設計図

【建築図】

【機械図】

A-00	図面リスト	A-21	改修後トイレ1階～3階（生徒用）平面詳細図	M-01	機械設備工事特記仕様書1
A-01	改修工事特記仕様書1			M-02	機械設備工事特記仕様書2
A-02	改修工事特記仕様書2	A-23	改修後トイレ1階～3階（生徒用）展開図	M-03	衛生設備器具リスト
A-03	改修工事特記仕様書3			M-04	衛生設備1階・2階平面図(改修)
A-04	改修工事特記仕様書4	A-25	改修後トイレ1階～3階（生徒用）天井伏図	M-05	衛生設備3階平面図(改修)
A-05	改修工事特記仕様書5			M-06	衛生設備生徒用1階トイレ1～3階平面詳細図
A-06	改修工事特記仕様書6	A-27	改修後建具配置図・改修後建具表各階共通・改修後TB姿図		
A-07	改修工事特記仕様書7	A-28	部分詳細図	M-08	衛生設備生徒用便所1～3階平面詳細図(現況)
A-08	改修工事特記仕様書8	A-29	仮設計画図	M-09	衛生設備職員用便所1階平面詳細図(現況)
A-09	改修工事特記仕様書9			M-10	換気設備生徒・職員用トイレ1～3階平面詳細図(改修)
A-10	改修工事特記仕様書10			M-11	換気設備生徒・職員用便所1～3階平面詳細図(現況)
A-11	メーカーリスト	【電気図】			
A-12	設計概要・外部仕上表・内部仕上表	E-01	電気設備工事特記仕様書1		
A-13	附近見取図	E-02	電気設備工事特記仕様書2		
A-14	配置図				
A-15	校舎1階・2階平面図	E-04	電灯盤改修		
A-16	校舎3階平面図	E-05	平面図		
A-17	改修前トイレ1階～3階（生徒用・職員用）平面図				
A-18	改修前トイレ1階～3階（生徒用）展開図	E-07	生徒用便所撤去改修図		

特記事項	令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図				設計・整理	一級建築士事務所
	図面リスト	SCALE	SCALE	SCALE	野中建築設計事務所	
	DW.	CK.	NO.	DATE	1級建築士第147931号 野中健一	
			A-00	03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	

建築改修工事 特記仕様書

【1】 工事概要

1. 工事場所 京都府船井郡京丹波町大槻ノ里内6番地

2. 敷地面積 _____ m²

3. 建築物概要

棟名	構造	階数	建築面積(m ²)	延べ面積(m ²)	備考
管理棟・教室棟	RC造	3		1747.8	

4. その他

【2】 適用範囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）をいう。（以下、これを「改修標準」という。）

本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標準」の適用を受けるものとする。

【3】 工事区分

設計図書による。

別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工事仕様

1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標準」のほか別記の適用基準による。

2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標準」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章 項 目	特 記 事 項
1 ① 適用基準等	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版（監修：国土交通省） ● 建築工事標準詳細図 平成28年版（監修：国土交通省） ○ 敷地調査共通仕様書 令和元年版（監修：国土交通省） ○ 建築構造設計基準及び参考資料 平成30年版（監修：国土交通省） ○ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版（監修：国土交通省） ○ 公共建築木造工事標準仕様書 平成31年版（監修：国土交通省） ● 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）平成31年版（監修：国土交通省） ● 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成31年版（監修：国土交通省） <p>（注：監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部を示す）</p>
② 建築材料等	<p>本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。</p> <p>下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」にある材料とする。</p> <p>また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとしてすることができる。（評価名簿によるもの）</p> <p>床型枠用鋼製デッキプレート（ワッドテック）、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材（7レミック形、現場調合形）、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材（防水立上部）、陶磁器質タイル、既製調合モルタル（タレ工事用）、既製調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材（タレ用）、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類（シリンダ箱錠、レバーノド錠、シリンダ本錠り錠）、クローザー類（ドアローザ、ピッチローザ、ドアピッチ）、自動扉機構（制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置）、自閉式上吊り引戸機構（手動開き式）、重量シャッター、軽量シャッター、オーバヘッドア、ガラス（フロート板ガラス、型板ガラス、網入板ガラス、線入板ガラス、熱線吸収板ガラス、倍強度ガラス、熱線反射ガラス）、ガラスブロック（中空）、防水剤、現場発泡断熱材、7レフタ777（300N、500N）、可動間仕切、移動間仕切（スライディングドア）、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム（屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム）、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、鍍鉄製ふた（マンホールふた・弁箱ふた）</p>

章 項 目	特 記 事 項																								
1 ③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。																								
④ 風圧力及び積雪に対する性能	<p>建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等</p> <p>風速 (V₀) ● 3 2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号)</p> <p>地表面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV</p> <p>多雪地域の指定 ● なし ○ あり</p>																								
⑤ 現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。																								
⑥ 工事工程報告	月報は毎月末日にメレ、翌月5日までに提出する。日報は監督職員の指示による。週報は毎週（ ）曜日に提出する。																								
⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する（適用事項は、現場説明書による） ○ 適用しない																								
⑧ 設備工事との取合い	<p>施工範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ● 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 <p>施工図</p> <p>設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。</p>																								
⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。																								
⑩ 工事写真 (1.2.4)	<p>工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。</p> <p>下記のもの監督職員に提出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>部 数(※ガ1板につき)</th> <th>分 類 ・ 規 格</th> <th>原版の大きさ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着 工 前</td> <td>● 1 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>工 事 中</td> <td>● 1 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">完 成 時</td> <td rowspan="2">屋 内 () 箇所</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>○ カラーキャビネ版</td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">外 観 () 箇所</td> <td>○ カラーキャビネ版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>○ カラーパネル半切</td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。</p> <p>完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。</p> <p>○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。適用する</p>		部 数(※ガ1板につき)	分 類 ・ 規 格	原版の大きさ (mm)	着 工 前	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	工 事 中	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	完 成 時	屋 内 () 箇所	● カラーサービス版	○ 24×36以上	○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上		外 観 () 箇所	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上	○ カラーパネル半切	○ 60×70以上
	部 数(※ガ1板につき)	分 類 ・ 規 格	原版の大きさ (mm)																						
着 工 前	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上																						
工 事 中	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上																						
完 成 時	屋 内 () 箇所	● カラーサービス版	○ 24×36以上																						
		○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上																						
	外 観 () 箇所	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上																						
		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上																						
11 電気保安技術者 (1.3.3)																									
⑫ 施工条件 (1.3.5)	現場説明書による																								
⑬ 発生材の処理等 (1.3.12)	<p>○ 引渡しを要するもの（ ）</p> <p>○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの（ ）</p> <p>○ 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による）</p> <p>○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ● 建設発生木材</p> <p>○ 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指定地処分（京都環境保全公社） ○ 自由処分（最寄りの再資源化施設へ搬出すること） <p>○ 指定副産物以外の搬出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 構外搬出適切処理 ○（ ） <p>○ 特別管理産業廃棄物</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>処 理 方 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 廃石綿等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCBを含む機器類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCB含有シーリング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃油</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ SF6ガス使用機器</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 廃石綿の処分地（ 株式会社環境保全公社瑞穂センター ）</p> <p>せつこうボードの処理方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 石綿含有せつこうボードの処理 改修標準9.1.5による ○ ひ素・カドミウム含有のせつこうボードの処理 <ul style="list-style-type: none"> ○ 製造業者にて処分 ○ 埋立処分 ○ その他のせつこうボードの処理 <ul style="list-style-type: none"> ○ 最終処分 ○ 再資源化 	種 類	処 理 方 法	○ 廃石綿等		○ PCBを含む機器類		○ PCB含有シーリング		○ 廃油		○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）		○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）		○ SF6ガス使用機器									
種 類	処 理 方 法																								
○ 廃石綿等																									
○ PCBを含む機器類																									
○ PCB含有シーリング																									
○ 廃油																									
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）																									
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）																									
○ SF6ガス使用機器																									

章 項 目	特 記 事 項																																								
1 ⑭ 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)	<p>PCB含有シーリング材の分析調査</p> <p>○ 行う（ ）箇所 ○ 行わない</p> <p>PCB含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱い」による。</p> <p>次の建設廃棄物は再資源化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 蛍光灯ランプ ○ HIDランプ ○ 硬質塩化ビニル管・継手 <p>再生資源利用（促進）計画書、実施書の提出</p> <p>詳細は現場説明書「II特記事項14建設副産物の取扱い2再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 建設発生土及び建設副産物処理計画書、報告書 を提出すること。 <p>マニフェスト制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。 <p>既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____</p>																																								
14 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3)	既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____																																								
⑮ 技能士 (1.6.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種別</th> <th>適用する技能士の技能検定における選択作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工事</td> <td>○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>○ 鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>● 左官作業 ○ 型枠組立作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工事</td> <td>○ コックアップブロック工事 ○ ALC工事</td> </tr> <tr> <td>カーテンウォール工事</td> <td>○ 金属製カーテンウォール施工 ○ ビル用ガラス工事</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>○ 757防水工事 ○ シーリング防水工事 ○ アルコーム系塗膜防水工事 ○ セメント系防水工事 ○ アクリル系塗膜防水工事 ○ FRP防水工事 ○ 合成ゴム系防水工事 ○ 塩化ビニル系防水工事 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>○ 石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>○ タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工工事</td> <td>● 大工組立作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びといた工事</td> <td>○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>● 鋼製下地工事 ○ 内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>● 左官作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>● 建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>○ ビル用ガラス工事 ○ ガラス工事 ○ ガラス系床仕上げ工事 ○ カット仕上げ工事 ○ カベット系床仕上げ工事 ○ 壁装作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>● 建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>○ 造園工事</td> </tr> </tbody> </table> <p>ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。</p>	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	○ とび作業	鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業	コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠組立作業	鉄骨工事	○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業	ブロック及びALC工事	○ コックアップブロック工事 ○ ALC工事	カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工 ○ ビル用ガラス工事	防水工事	○ 757防水工事 ○ シーリング防水工事 ○ アルコーム系塗膜防水工事 ○ セメント系防水工事 ○ アクリル系塗膜防水工事 ○ FRP防水工事 ○ 合成ゴム系防水工事 ○ 塩化ビニル系防水工事 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	○ タイル張り作業	木工工事	● 大工組立作業	屋根及びといた工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事	金属工事	● 鋼製下地工事 ○ 内外装板金作業	左官工事	● 左官作業	塗装工事	● 建築塗装作業	建具工事	○ ビル用ガラス工事 ○ ガラス工事 ○ ガラス系床仕上げ工事 ○ カット仕上げ工事 ○ カベット系床仕上げ工事 ○ 壁装作業	内装工事	○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事	排水工事	● 建築配管作業	舗装工事	○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事	植栽工事	○ 造園工事
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																								
仮設工事	○ とび作業																																								
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業																																								
コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠組立作業																																								
鉄骨工事	○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業																																								
ブロック及びALC工事	○ コックアップブロック工事 ○ ALC工事																																								
カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工 ○ ビル用ガラス工事																																								
防水工事	○ 757防水工事 ○ シーリング防水工事 ○ アルコーム系塗膜防水工事 ○ セメント系防水工事 ○ アクリル系塗膜防水工事 ○ FRP防水工事 ○ 合成ゴム系防水工事 ○ 塩化ビニル系防水工事 ○ 改質アスファルトシート工法防水工事																																								
石工事	○ 石張り作業																																								
タイル工事	○ タイル張り作業																																								
木工工事	● 大工組立作業																																								
屋根及びといた工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事																																								
金属工事	● 鋼製下地工事 ○ 内外装板金作業																																								
左官工事	● 左官作業																																								
塗装工事	● 建築塗装作業																																								
建具工事	○ ビル用ガラス工事 ○ ガラス工事 ○ ガラス系床仕上げ工事 ○ カット仕上げ工事 ○ カベット系床仕上げ工事 ○ 壁装作業																																								
内装工事	○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事																																								
排水工事	● 建築配管作業																																								
舗装工事	○ 溶融インサートマー工事 ○ 加熱インサートマー工事																																								
植栽工事	○ 造園工事																																								
16 施工の検査等 (1.6.5)	見本施工の実施 ○ 適用する（ ） ○ 適用しない																																								
17 化学物質の濃度測定 (1.6.9)	適用する（適用事項は、現場説明書による）																																								
⑯ 完成図 (1.8.2)	作成する（提出部数 ● 2部 ○ 部） 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。																																								
⑰ 保全に関する資料 (1.8.3)	<p>作成する（提出部数 ● 2部 ○ 部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 <p>建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。</p>																																								

章 項 目	特 記 事 項																
2 ① 足場その他 (2.1.3) (2.2.1)	<p>労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。</p> <p>外部足場 ○ 施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。</p> <p>内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ _____</p> <p>防護シート等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ○ ネット及び養生シート <p>材料、撤去材等の選搬方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ A種 ● B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種 (表2.2.1) <p>足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中核及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり専用足場方式を採用すること。屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971（屋根工事用足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。</p>																
2 ② 既存部分の養生 (2.3.1)	<p>既存部分の養生 ※ 行う（※ビニールシート、合板 ○ _____） ○ 行わない</p> <p>既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う（※ビニールシート ○ _____） ○ 行わない</p> <p>既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>養生の方法 ○ 取り外しの上で清掃 ○ _____</p> <p>保管場所 ○ 室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ _____</p> <p>家具の移動 ○ 行う（図示） ○ 行わない</p>																
2 ③ 仮設間仕切り (2.3.2)	<p>○ 設ける（図示）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>仕上げ(厚さmm)</th> <th>塗装</th> <th>充填</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ A種</td> <td>● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm</td> <td>● なし ○ 片面 ○</td> <td>グラスウール ○ 24kg/m³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm</td> </tr> <tr> <td>● B種</td> <td>○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ C種</td> <td>全面シート張り</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 設けない</p>	種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填	○ A種	● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm	● なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm	● B種	○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm			※ C種	全面シート張り		
種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填														
○ A種	● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm	● なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm														
● B種	○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm																
※ C種	全面シート張り																
4 監督職員事務所 (2.4.1)	<p>規模 ○ 10m²程度 ○ 20m²程度 ○ 35m²程度 ○ 65m²程度 ○ 100m²程度</p> <p>仕上床 ○ 合板張り素地 ○ ビニル床シート敷き ○ パンクベッコ敷き</p> <p>内壁、天井 ○ 合板又はせつこうボード張り、合成樹脂エポキシペイント塗り</p> <p>屋根 ○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り鋼合ペイント塗り</p> <p>休憩室 ○ 設けない ○ 設ける（畳敷き） ○ _____</p> <p>備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類のか（上記6品、 _____人分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ _____ ○ 改修標準（平成31年版） ○ 建築改修工事監理指針（令和元年版） ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図（平成28年版） ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版） 																
5 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる（●有償 ○無償）																
6 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できない ● 利用できる（●有償 ○無償）																
7 仮囲い等	○ 図示による ○ _____																
8 設計GL	○ 図示による ○ 設計GL=現状GL																

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項
(2) 土・鉄筋・コンクリート工事	1 埋め戻し及び盛土 (3.2.3) (8.28.3)	○ A種 砂質土 (山砂の類) を水締め又は機器による締固め (表3.2.1) ○ B種 根切り土中の良質土を機器による締固め ○ C種 他現場の建設発生土中の良質土を機器による締固め ○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ その他 (材料 _____ 工法 _____) ○ 建設発生土 (盛土材) の外部からの受入土量 (_____ m ³) 発生場所 (_____)	10 構造体強度補正值 (6.3.2)	※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表6.3.2)	3 防水改修工事	5 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)	絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15 (保護防水工法) ※ フラットヤーンクロス (70g/m ² 程度) (保護防水断熱工法) ○ 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部の保護 ○ 乾式保護材 (_____) ○ 普通れんが (JIS R 1250) ○ 化粧れんが (JIS R 1250) ○ _____ ○ コンクリート (工法 _____) 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ _____ mm ○ こて仕上げ _____ mm ○ 床タイル張り等仕上げ _____ mm コンクリート仕上りの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種 脱気装置 ○ 設ける 材 種 (_____) 設置数量 (_____ 1箇所/ _____ m ²) 伸縮調整目地 ※ 成形伸縮目地材 ○ _____ 成形緩衝材 ※ ル-フing 類製造所の指定品 ○ _____ 屋上排水溝 ※ 図示による
	2 建設発生土の処理 (3.2.5)	下記に定めるほかは、現場説明書による ○ 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ○ (一財) 城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____ 土壌調査 ○ 行う (受入場所指定の検査) ○ _____ ○ 京都府土砂等による土地の立役等規制に関する条例施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ○ _____ ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積 ○ 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、搬出土量が少量 (5.0m ³ 以内) かつ緊急の場合等 (表5.2.1)	11 コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)	※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する		6 漏水試験	※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ○ 屋外)
	3 鉄筋の種類 (5.2.1)	異形鉄筋 種類 の記号 径 (mm) 備 考 ※ S D 2 9 5 A D 1 6 以下 ※ S D 3 4 5 D 1 9 以上 ○	12 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m ³		7 保証書	※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)
	4 溶接金網 (5.2.2)	網目の形状、寸法 @ 1 5 0 鉄線の径 6 mm	13 寒中コンクリート (6.11.1)	※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。		8 施工標識	工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____ 設置数量 (_____) 箇所
	5 コンクリートの種類 (6.2.1)	種類 ※ 普通コンクリート ○ _____ (表6.2.1) 類別 ※ I類 ○ II類	14 暑中コンクリート (6.12.2)	※ 暑中における構造体強度補正值 (S)		9 シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)	シーリング材の種類 ※ 改修標仕表3.7.11による シーリング改修工法及び施工箇所 改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所 ○ シーリング充填工法 ○ シーリング再充填工法 ○ 拡幅シーリング再充填工法 ○ ブリッジ工法
	6 コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)	設計基準強度 (F _c) 打 設 部 位 F _c (N/mm ²) スランプ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 2.4 ○ 1.5 ○ 1.8 ○ 1.8 上部 ● 2.4 ○ ● 1.5 ○ 1.8 土間スラブを含む 土間コンクリート ○ 1.8 ○ 1.5 ○ 1.8 側溝・犬走り 捨コンクリート ○ 1.8 ○ 1.5 ○ 1.8 軽量コンクリート ○ 2.1 ○ ※ 2.1 ○ 1.8 無筋コンクリート ※ 1.8 ○ ○ 1.5 ○ 1.8 標仕6.14.1による	15 コンクリート車の過積載防止対策等	受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサ車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。		10 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)	目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびびり割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ _____ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ _____ その他の目地 ※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ _____ シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 (部位 _____) ○ 引張接着性試験 (部位 _____) ※ 外とい (外気に接するとい)
	7 セメントの類別 (6.3.1)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種 (適用箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントB種 (施工箇所 _____)	1 既存下地の処理 (3.2.6)	既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等 ○ 図示による ○ _____		11 アルミニウム製 笠木 (3.9.2) (3.9.3)	種類 幅 板厚 (mm) 表面処理 備 考 ○ 250 形 ○ 240 1.6 ○ AB-1種 ○ AB-2種 隅角部及び突当たり部 ○ 300 形 300 1.8 ○ AC-1種 ○ AC-2種 等の役物は本体製造 ○ 350 形 350 2.0 ○ BA-1種 ○ BA-2種 の仕様による。 ○ ○ BB-1種 ○ BB-2種 ○ ○ BC-1種 ○ BC-2種 曲げ材 ○ _____ ※ 2.0 ○ C種 ○ オープン 形 ○ _____ ○ シール 形 ○ _____ 既存笠木等の撤去 ○ 行う (範囲 ○ 図示 ○ _____) ○ 行わない 下地補修の工法 ※ 図示 ○ 板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○ 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○ _____ (表3.9.1)
	8 骨材 (6.3.1)	粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フェロニッケルスラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○ _____	2 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5)	○ 保護防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 ○ P 1 B 工 法 ○ B-1 ○ B-2 表3.3.3 ○ B-3 ○ P 1 B 1 工 法 ○ B1-1 ○ B1-2 表3.3.4 ○ T 1 B 1 工 法 ○ B1-3 ○ P 2 A 1 工 法 ○ A1-1 ○ A1-2 表3.3.5 ○ A1-3 ○ P 2 A 工 法 ○ A-1 ○ A-2 表3.3.6 ○ A-3		○ 露出防水工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 仕上塗料 種類 使用量 ○ M 4 C 工 法 ○ C-1 ○ C-2 表3.3.7 ○ C-3 ○ M 3 D 工 法 ○ D-1 ○ D-2 表3.3.8 ○ D-3 ○ D-4 ○ P 0 D 工 法 ○ D-3 ○ D-4	
	9 混和材料 (6.3.1)	○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフェウム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	○ 露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 仕上塗料 種類 使用量 ○ P 0 D 1 工 法 ○ M 3 D 1 工 法 ○ D1-1 ○ D1-2 表3.3.9 ○ M 4 D 1 工 法	○ 露出防水絶縁断熱工法 種 別 防水層 施 工 箇 所 仕上塗料 種類 使用量 ○ P 0 S 工 法 ○ S(1)-F1 表3.5.1 ○ S 4 S 工 法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) 表3.5.2 ○ P 0 S 1 工 法 ○ S(1)-F2 ○ S(1)-M1 表3.5.3 ○ S 4 S 1 工 法 ○ S(1)-M2 ○ S(1)-M3 ○ S 3 S 工 法 ○ S(1)-F1 ○ S 3 S 1 工 法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○ S(1)-F2 ○ M 4 S 工 法 ○ S(1)-M1 ○ S(1)-M2 ○ M 4 S 1 工 法 ○ S(1)-M3 ○ P 1 S 工 法 S-C1 表3.5.3 表3.5.3 表3.5.3			
	特記事項	令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図	4 合成高分子系ル-フingシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	○ 断熱材 (断熱工法) 厚さ ○ _____ mm 種類 機械的固定工法の場合 ○ _____ 接着工法の場合 ○ _____ OS-M2 OS1-M2 の場合で立上りが接着工法の場合 立上り面のシートの厚さ ※ 1.5 mm ○ mm S1-M1及びS1-M2の場合の防湿用フィルム ○ 設置する 接着工法の場合で、P Cコンクリート部材下地の場合 目地処理 ※ 図示による ○ _____ 入隅部の増張り (S-F1、S1-F1の場合) ※ 図示による ○ _____ 絶縁用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ _____ 仕上げ塗料 ○ ガー ○ シルバ 脱気装置 (接着工法) ○ 設ける 材 種 (_____) 設置数量 (1箇所/ _____ m ²) ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの ○ _____			

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0
TEL. 0771-62-0288 FAX. 0771-62-0408

4	1 施工数量調査 (1.5.2)	<p>調査範囲 ○ 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲</p> <p>調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。</p> <p>モルタル塗り仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。</p> <p>コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。</p> <p>塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。</p> <p>既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>調査報告書の部数 ○ 2部 ○ _____</p> <p>※ 施工に先立ち、建築士診断技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。</p>																																							
	2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.2)	<p>○ コンクリート打放し仕上げ</p> <p>○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形</p> <p>コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない (注入状況確認方法 _____)</p> <p>抜き取り部数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材</p> <p>充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>○ シール工法</p> <p>○ パテ状エポキシ樹脂</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <p>○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形</p> <p>コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き取り部数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材</p> <p>充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>○ シール工法</p> <p>○ パテ状エポキシ樹脂</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																						
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																						
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																						
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																						
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																						
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																						
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																						
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																						
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																						
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																						

4	外壁改修工事	<p>○ タイル張り仕上げ</p> <p>○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形</p> <p>ひび割れ部の注入状況の確認</p> <p>○ コア抜き検査</p> <p>抜き取り部数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材</p> <p>充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>タイル撤去後の補修</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 変成シリコン樹脂</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ウレタン樹脂</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ コンクリート打放し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ モルタル張替え工法 ※ 改修仕様表4.4.11による</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____</p> <p>タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験</p> <p>○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>タイル張りの工法</p> <p>外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り</p> <p>外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____</p> <p>タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル			○ 変成シリコン樹脂			○ ウレタン樹脂		○ タイル張替え工法			工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル			○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)			○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル			○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)			○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																								
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																									
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																									
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																									
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																									
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
	○ 変成シリコン樹脂																																																																											
	○ ウレタン樹脂																																																																											
○ タイル張替え工法																																																																												
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																											
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																											
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
	○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
	○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
	○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
	○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.2)	<p>○ コンクリート打放し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ モルタル張替え工法 ※ 改修仕様表4.4.11による</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____</p> <p>タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験</p> <p>○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>タイル張りの工法</p> <p>外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り</p> <p>外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____</p> <p>タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル			○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル			○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)			○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル			○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)			○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																					
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																											
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																											
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																										
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
	○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
	○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																											
	○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											
	○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																											

4	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)	<p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所 /ml)</th> <th>注入量 (箇所 /ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※25</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>○ _____</p> <p>注入口付アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 程度</p> <p>○ _____</p> <p>○ 充填工法</p> <p>○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</p> <p>○ モルタル塗替え工法</p> <p>既設目地材 ○ 使用する (形状 _____)</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所 /ml)</th> <th>注入量 (箇所 /ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※25</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>○ _____</p> <p>注入口付アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 程度</p> <p>○ _____</p> <p>○ 工 法</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所の面積 (㎡)</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル部分張替え工法</td> <td rowspan="2">0.25未満</td> <td>※ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td rowspan="2"></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____</p> <p>タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験</p> <p>○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>タイル張りの工法</p> <p>外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り</p> <p>外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____</p> <p>タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所	○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25			※25	○	○			○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25	※20	○	※20	○	○	○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50	※20	○	※20	○	○	○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25			※16	○	○			○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25	※16	○	※16	○	○	○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50	※16	○	※16	○	○	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所	○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25			※25	○	○			○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25	※20	○	※20	○	○	○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50	※20	○	※20	○	○	○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25			※16	○	○			○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25	※16	○	※16	○	○	○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50	※16	○	※16	○	○	○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法			※25	※25				○	○		工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)				○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	
	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所																																																																																																																																																																											
○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25																																																																																																																																																																														
	※25	○	○																																																																																																																																																																														
○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25																																																																																																																																																																														
	※16	○	○																																																																																																																																																																														
○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25																																																																																																																																																																														
	※25	○	○																																																																																																																																																																														
○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25																																																																																																																																																																														
	※16	○	○																																																																																																																																																																														
○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法			※25	※25																																																																																																																																																																													
			○	○																																																																																																																																																																													
工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																														
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																															
		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															
○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																															
		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															
		○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															
4 外壁改修工事	<p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>アンカーピン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所 /ml)</th> <th>注入量 (箇所 /ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※25</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法</td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> <td>※25</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</p> <p>○ _____</p> <p>注入口付アンカーピン</p> <p>※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 程度</p> <p>○ _____</p> <p>○ 工 法</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所の面積 (㎡)</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル部分張替え工法</td> <td rowspan="2">0.25未満</td> <td>※ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td rowspan="2"></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地</p> <p>位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____</p> <p>タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験</p> <p>○ 行う ○ 行わない</p> <p>抜き取り部の補修方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>タイル張りの工法</p> <p>外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り</p> <p>外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤によるタイル張り</p> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____</p> <p>タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル</p>	工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所	○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25			※25	○	○			○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25	※20	○	※20	○	○	○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50	※20	○	※20	○	○	○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25			※16	○	○			○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25	※16	○	※16	○	○	○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50	※16	○	※16	○	○	○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法			※25	※25				○	○		工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)				○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																										
工 法	アンカーピン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所 /ml)	注入量 (箇所 /ml)	施工箇所																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25																																																																																																																																																																														
	※25	○	○																																																																																																																																																																														
○ アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50																																																																																																																																																																												
	※20	○	※20	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25																																																																																																																																																																														
	※16	○	○																																																																																																																																																																														
○ 注入口付アンカーピン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン全面珪酸樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50																																																																																																																																																																												
	※16	○	※16	○	○																																																																																																																																																																												
○ 注入口付アンカーピン球状樹脂注入工法			※25	※25																																																																																																																																																																													
			○	○																																																																																																																																																																													
工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																														
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																															
		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															
○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																															
		○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															
		○ 珪酸樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																															

4	5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)	<p>タイル張り仕上げ</p> <p>○ 目地ひび割れ部改修工法</p> <p>○ 伸縮調整目地改修工法</p> <p>位置 ※ 改修仕様表4.5.1による ○ 図示による</p> <p>寸法 (幅×深さ)</p> <p>コナリ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20mm以上×10mm以上 ○ _____</p> <p>その他 ※ 10mm以上×10mm以上 ○ _____</p>																																																									
	6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)	<p>建築補修用注入エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れの幅 (mm)</th> <th>0.2~0.3未満</th> <th>0.3~0.5未満</th> <th>0.5~1.0以下</th> </tr> <tr> <th>注入口の間隔 (mm)</th> <td>200程度</td> <td>300程度</td> <td>300程度</td> </tr> <tr> <th>注入量 (CC/mm)</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法</p> <p>○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</p> <p>ひび割れ部の注入状況の確認</p> <p>○ コア抜き検査</p> <p>(抜き取り部数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ _____)</p> <p>(抜き取り部分の補修方法 _____)</p> <p>○ _____</p>	ひび割れの幅 (mm)	0.2~0.3未満	0.3~0.5未満	0.5~1.0以下	注入口の間隔 (mm)	200程度	300程度	300程度	注入量 (CC/mm)																																																
ひび割れの幅 (mm)	0.2~0.3未満	0.3~0.5未満	0.5~1.0以下																																																								
注入口の間隔 (mm)	200程度	300程度	300程度																																																								
注入量 (CC/mm)																																																											
4	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5)	シーリング材の上にポリマーセメントモルタル																																																									
	8 アンカーピン注入工法 (4.2.2)	アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒																																																									
4	9 注入口付アンカーピン注入工法 (4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304)、呼び径6mm 程度																																																									
	10 モルタル塗替え工法 (4.2.2)	モルタル ○ 現場調査材料 ○ 既設調査材料 (_____)																																																									
4	11 タイル部分張替え工法及びひび割れ部補修工法 (4.2.2) (4.5.8)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所及びタイルの種類</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>生地</th> <th>釉薬</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>工法その他</th> </tr> <tr> <td>○ 図示</td> <td></td> <td>○ 磁器</td> <td>○ 無釉</td> <td>○ 有り</td> <td>※ 標準</td> <td>○ 有り</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ セッ器</td> <td>○ 施釉</td> <td>○ 無し</td> <td>○ 特注</td> <td>○ 無し</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 陶器</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 既設調査材料 (_____)</p> <p>タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う</p> <p>タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う</p> <p>施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く)</p> <p>浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う</p> <p>接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない</p>	施工箇所及びタイルの種類	形状寸法 (mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他	○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り					○ セッ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し					○ 陶器																											
	施工箇所及びタイルの種類	形状寸法 (mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他																																																		
○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り																																																					
		○ セッ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し																																																					
		○ 陶器																																																									
12 窓下人研面台の補修	タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地																																																										
4	13 仕上げ塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)	○ シール工法 (※ 仕上げ塗材は外壁仕上げ塗材の上塗り材とする。)																																																									
	薄付け仕上げ塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)	<table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 可とう形外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">○ 外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 着色骨材砂壁状</td> <td>○ こて</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">○ 可とう形外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 凹凸状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材S</td> <td>砂壁状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> </table>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ さざ波状	ローラー	○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ さざ波状	ローラー	○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ 平たん状	こて		○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー		○ 着色骨材砂壁状	○ こて	吹付け	○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け		○ 平たん状	こて		○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー		○ さざ波状	ローラー	○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状	吹付け		○ 凹凸状	吹付け		○ 外装薄塗材S	砂壁状	吹付け
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																								
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																								
		○ さざ波状	ローラー																																																								
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																								
		○ さざ波状	ローラー																																																								
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																								
		○ 平たん状	こて																																																								
		○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー																																																							
		○ 着色骨材砂壁状	○ こて	吹付け																																																							
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け																																																								
		○ 平たん状	こて																																																								
		○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー																																																							
		○ さざ波状	ローラー																																																								
○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状	吹付け																																																									
	○ 凹凸状	吹付け																																																									
○ 外装薄塗材S	砂壁状	吹付け																																																									
厚付け仕上げ塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)	<table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材C</td> <td>○ 吹放し</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td>(○ 上塗材)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材Si</td> <td>○ 吹放し</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材E</td> <td>○ 吹放し</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ひき起し</td> <td>○ かき落とし</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>(○ 上塗材)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	(○ 上塗材)				○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて	○ 外装厚塗材E	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け		○ ひき起し	○ かき落とし	ローラー	(○ 上塗材)																									
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																								
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け																																																								
		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																							
(○ 上塗材)																																																											
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け																																																								
		○ 平たん状	○ 凹凸状	こて																																																							
○ 外装厚塗材E	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け																																																								
		○ ひき起し	○ かき落とし	ローラー																																																							
(○ 上塗材)																																																											

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

改修工事特記仕様書 3

DW.	CK.	NO.	DATE
		A - 03	03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

4 外壁改修工事	<p>複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類(呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材 C E</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材 S i</td> <td>○ 凹凸状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材 E</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 複層塗材 R E</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形複層塗材 C E</td> <td>○ 凸部処理 ○ 凹凸状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形複層塗材 E</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 防水形複層塗材 C E</td> <td>○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 防水形複層塗材 E</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>(○増塗材)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 防水形複層塗材 R E</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> </table>	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	○ 複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け		○ 複層塗材 S i	○ 凹凸状			○ 複層塗材 E				○ 複層塗材 R E	○ ゆず肌状	ローラー		○ 可とう形複層塗材 C E	○ 凸部処理 ○ 凹凸状	吹付け		○ 可とう形複層塗材 E	○ ゆず肌状	ローラー		○ 防水形複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け		○ 防水形複層塗材 E	○ 凹凸状	(○増塗材)		○ 防水形複層塗材 R E	○ ゆず肌状	ローラー	
	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																					
	○ 複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け																																						
	○ 複層塗材 S i	○ 凹凸状																																							
	○ 複層塗材 E																																								
	○ 複層塗材 R E	○ ゆず肌状	ローラー																																						
	○ 可とう形複層塗材 C E	○ 凸部処理 ○ 凹凸状	吹付け																																						
	○ 可とう形複層塗材 E	○ ゆず肌状	ローラー																																						
	○ 防水形複層塗材 C E	○ 凸部処理	吹付け																																						
	○ 防水形複層塗材 E	○ 凹凸状	(○増塗材)																																						
	○ 防水形複層塗材 R E	○ ゆず肌状	ローラー																																						
	<p>可とう形改修用仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類(呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○ 可とう形改修塗材 E</td> <td>○ 平たん状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形改修塗材 R E</td> <td>○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形改修塗材 C E</td> <td>○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> </table>	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	○ 可とう形改修塗材 E	○ 平たん状	ローラー		○ 可とう形改修塗材 R E	○ さざ波状	ローラー		○ 可とう形改修塗材 C E	○ ゆず肌状	吹付け																									
	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																					
	○ 可とう形改修塗材 E	○ 平たん状	ローラー																																						
○ 可とう形改修塗材 R E	○ さざ波状	ローラー																																							
○ 可とう形改修塗材 C E	○ ゆず肌状	吹付け																																							
<p>防火材料の指定 ※なし ○</p> <p>下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修 ※ 行う (参考工法 : _____ 製造所 : _____) ○ 行わない</p>																																									
<p>仕上塗材の耐候性 ※ 耐候形 3 種 ○</p> <p>仕上塗材の上塗材 溶媒 ※ 水系 ○ 弱溶剤系 ○ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 ○ 外観 ※ つや有 ○ つやなし ○ メタリック</p>																																									
<p>14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)</p> <p>既存塗膜の除去方法 ※ 試験施工実施 ○ サンダー工法 ○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○ 30Mpa ○) ○ 塗膜は刮削工法 (製造所 : _____) ○ 水洗い工法 (○ テックラシ ○ 高圧ホッパ 10~15pa)</p> <p>既存塗膜の除去範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ○ 既存壁面の (_____ %) ○ 別図に示す範囲</p> <p>下地処理 下地のひび割れ部等の補修 ○ 図示による 下地調整材 ※ セメント系下地調整材 (JIS A 6916) ○ ポリマーセメントモルタル ○ 防水形仕上塗材主材 (JIS A 6910 (複層仕上塗材))</p>																																									
<p>15 マスチック塗材塗り (4.7.2)</p> <p>種類 ○ A 種 ○ B 種 (表4.6.7)</p>																																									
<p>16 部分改修工法 (4.6.6)</p> <p>仕上げ塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材 ○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材 ○ 防水形複層仕上塗材 ○ マスチック塗材 施工箇所 ○ 別図に示す範囲 ○</p>																																									
<p>17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.2.2) (4.8.2)</p> <p>外壁用塗膜防水塗り 仕上げの形状 _____ 工法 _____ 外壁用仕上げ塗材の耐候性 ※ JIS A 6909 の耐候性 I 種相当 ○ 下地挙動緩衝材の適用 ○ 適用する ○ 適用しない 吹付け工法の模様材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m²) 外壁用仕上げ塗材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m²)</p>																																									

5 建具改修工事	<p>① 性能</p> <p>※ 「第 1 章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。</p>
	<p>② 施工数量調査 (1.5.2)</p> <p>※ 行う (○ 建具金物 ○ ガラス ○ ガラス止め材 ○) ※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない</p>
	<p>3 改修工法 (5.1.3)</p> <p>既存建具を新規建具に改修する場合 ※ かぶせ工法 (○ カバー工法 ○ 持出し工法 ○ ノンシール工法) ○ 撤去工法 (○ はつり工法 ○ 引き抜き工法) 新規に建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開口方法 ※ 図示による ○ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示による ○</p>
	<p>4 防火戸 (5.1.4)</p> <p>※ 図示による ○ ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ○ 連動させる (※ 建具表による ○) ○ 連動させない</p>
	<p>5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)</p> <p>建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 _____) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 _____) ○ ブラインドボックス等の再使用 (_____)</p>
	<p>6 防犯建物部品 (5.1.7)</p> <p>開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ ドア 適用箇所 (_____) ・ サッシ 適用箇所 (_____) ・ シャッター 適用箇所 (_____)</p>

5 建具改修工事	<p>7 アルミニウム製建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)</p> <p>外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>性能等級</th> <th>○ A 種</th> <th>○ B 種</th> <th>○ C 種</th> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-3 ○</td> <td></td> <td>※ A-4 ○</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td></td> <td>※ W-5 ○</td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※ 図示 ○ 70</td> <td>○ 100</td> <td>○ 図示 ○</td> </tr> </table> <p>表面処理 (表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>色</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○ BB-1 種</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○ BB-2 種</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) ○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) ○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追従性の等級 _____) 結露水の処理方法 ※ 図示による ○ 水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ ※ 出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。</p>	性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-3 ○		※ A-4 ○	水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○	枠見込み(mm)	※ 図示 ○ 70	○ 100	○ 図示 ○	種別	色	施工箇所	○ BB-1 種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○	○ BB-2 種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○	○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注	
	性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種																																			
	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																			
	気密性	※ A-3 ○		※ A-4 ○																																			
	水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○																																			
	枠見込み(mm)	※ 図示 ○ 70	○ 100	○ 図示 ○																																			
	種別	色	施工箇所																																				
	○ BB-1 種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○																																				
	○ BB-2 種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による ○																																				
	○	○ 標準 ○ 特注																																					
	○	○ 標準 ○ 特注																																					
	○	○ 標準 ○ 特注																																					
	<p>8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)</p> <p>防虫網 網の種類 ※ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス製 (SUS316) 形式 ※ 外部可動式 ○ 固定式 線径、網目 ※ 0.25mm 以上、16~18メッシュ ○ 防鳥網 ○ 設置する</p>																																						
	<p>9 樹脂製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4)</p> <p>外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>性能等級</th> <th>○ A 種</th> <th>○ B 種</th> <th>○ C 種</th> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-4 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td></td> <td>※ W-5 ○</td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※ 図示 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○) ○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-4 ○ H-5 ○ H-6)</p> <p>ガラス ※ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス ○ 表面色 ○ 標準色 ○ 特注色</p>	性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-4 ○			水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○	枠見込み(mm)	※ 図示 ○																				
性能等級	○ A 種	○ B 種	○ C 種																																				
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																				
気密性	※ A-4 ○																																						
水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○																																				
枠見込み(mm)	※ 図示 ○																																						
<p>10 鋼製建具 (5.4.2) ~ (5.4.4)</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) ○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) ○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追従性の等級 _____) JIS ただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修標準による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板類の厚さ ※ 表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm</p>																																							
<p>11 鋼製軽量建具 (5.5.2) ~ (5.5.4)</p> <p>簡易気密型ドアセットの気密性 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない ○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) ○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) ○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追従性の等級 _____) 鋼板 ※ 表面処理垂鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 鋼板類の厚さ ※ 表5.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm 召合せ、縦小口包み材の材質 ※ 鋼板 ○</p>																																							
<p>12 ステンレス製建具 (5.6.2) ~ (5.6.5)</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアとする場合 (面内変形追従性の等級 ○ D-1 ○ D-2)</p> <p>ステンレス鋼板の種類 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○</p> <p>JIS ただし書き建具の寸法許容差 ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ</p>																																							

5 建具改修工事	<p>13 建具用金物 (5.7.2) ~ (5.7.4)</p> <p>マスターキーの製作 ※ 作成する (_____ グループ、各グループ _____ 個) ○ 作成しない ○ 在来マスターキーに合わせる 鍵の制作本数 ※ 3本1組 ○ 開き戸 (表5.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>○ シリンダー箱錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス ○ In¹-ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)</td> <td>○ 取付位置 (_____) 実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 本締り錠</td> <td>シリンダー: ステンレス</td> <td>実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 空錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス ○ In¹-ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)</td> <td>○ 取付位置 (_____)</td> </tr> <tr> <td>○ グレモン錠</td> <td>In¹-ハンドル: 亜鉛合金、(○ステンレス)</td> <td>○ 取付位置 (_____)</td> </tr> <tr> <td>ケースハンドル錠</td> <td>ステンレス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>点検口錠</td> <td>亜鉛合金程度、(○ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丁香</td> <td>ステンレス、(○黄銅)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ビボットヒンジ</td> <td>か¹-部: ステンレス、(○亜鉛合金)</td> <td>亜鉛合金は木製建具用のみ</td> </tr> <tr> <td>点検口軸吊りヒンジ</td> <td>建具製作所の仕様による</td> <td>○ 自閉装置付き</td> </tr> <tr> <td>○ フロアヒンジ</td> <td>か¹-部: ステンレス、(本体は鋼)</td> <td>ドアクローザー</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジ加ザ¹- (丁香型)</td> <td>鋼 (焼付け塗装)</td> <td>○ 遅延戻り機能付き</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジ加ザ¹- (ビレット型)</td> <td>か¹-部: ステンレス、(本体は鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ドアクローザー</td> <td>本体: 7%NiCu合金 アム部: 鋼 (焼付け塗装)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>閉鎖順位調整器</td> <td>ステンレス、(○鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 押棒・押板</td> <td>(○ステンレス、○黄銅、○合成樹脂)</td> <td>○ 取付位置 (_____)</td> </tr> <tr> <td>上げ落し (フランス落し)</td> <td>亜鉛合金程度、(○ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アムトッパ¹-戸当り</td> <td>鋼 (クロムめっき)、(○ステンレス) 亜鉛合金程度、(○ステンレス、○黄銅)</td> <td>○ おり止め付き</td> </tr> </table> <p>引戸 (表5.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>引戸用錠</td> <td></td> <td>木製建具の場合 : シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 (_____)</td> </tr> <tr> <td>○ クレセント</td> <td>建具製作所の仕様による。</td> <td>木製建具の場合: ステンレス (○黄銅)</td> </tr> <tr> <td>引手類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸車 (上吊りの場合を除く)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レール (上吊りの場合を除く)</td> <td>ステンレス、(○7%NiCu合金 ○黄銅)</td> <td>黄銅は木製建具用のみ</td> </tr> </table> <p>金属製建具用丁香 ※ 表 5.7.2 による ○ 樹脂製建具用丁香 ※ 表 5.7.3 による ○</p> <p>駆動装置及び検出装置の性能 ○ 引き戸用駆動装置性能値 (表5.8.1) による (○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2) ※ 改修標準 表5.8.1 による (○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類・開閉方式</th> <th>耐電圧</th> <th>温度上昇</th> <th>耐久性(サイクル)</th> <th>防錆</th> <th>電源</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置性能値 ※ 改修標準 表5.8.2 による ○ 耐電圧 温度上昇 耐久性(サイクル) 防錆 電源</p> <table border="1"> <tr> <th>耐電圧</th> <th>温度上昇</th> <th>耐久性(サイクル)</th> <th>防錆</th> <th>電源</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 引き戸用検出装置性能値 ※ 改修標準 表5.8.3 による ○ 放射無線周波数電磁界耐性 耐電圧 防錆 防滴 電源</p> <table border="1"> <tr> <th>放射無線周波数電磁界耐性</th> <th>耐電圧</th> <th>防錆</th> <th>防滴</th> <th>電源</th> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>戸の開閉方式 ※ 建具表による ○ 引き戸検出装置の種類 ○ 表 5.8.4 (_____) による ※ 建具表による凍結防止措置 ○ 行う</p>	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	○ シリンダー箱錠	○ 握り玉: ステンレス ○ In ¹ -ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)	○ 取付位置 (_____) 実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○	○ 本締り錠	シリンダー: ステンレス	実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○	○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス ○ In ¹ -ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)	○ 取付位置 (_____)	○ グレモン錠	In ¹ -ハンドル: 亜鉛合金、(○ステンレス)	○ 取付位置 (_____)	ケースハンドル錠	ステンレス		点検口錠	亜鉛合金程度、(○ステンレス)		丁香	ステンレス、(○黄銅)		○ ビボットヒンジ	か ¹ -部: ステンレス、(○亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ	点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き	○ フロアヒンジ	か ¹ -部: ステンレス、(本体は鋼)	ドアクローザー	○ ヒンジ加ザ ¹ - (丁香型)	鋼 (焼付け塗装)	○ 遅延戻り機能付き	○ ヒンジ加ザ ¹ - (ビレット型)	か ¹ -部: ステンレス、(本体は鋼)		○ ドアクローザー	本体: 7%NiCu合金 アム部: 鋼 (焼付け塗装)		閉鎖順位調整器	ステンレス、(○鋼)		○ 押棒・押板	(○ステンレス、○黄銅、○合成樹脂)	○ 取付位置 (_____)	上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度、(○ステンレス)		○ アムトッパ ¹ -戸当り	鋼 (クロムめっき)、(○ステンレス) 亜鉛合金程度、(○ステンレス、○黄銅)	○ おり止め付き	金物の種類	見え掛り部の材質	その他	引戸用錠		木製建具の場合 : シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 (_____)	○ クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (○黄銅)	引手類			戸車 (上吊りの場合を除く)			レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、(○7%NiCu合金 ○黄銅)	黄銅は木製建具用のみ	種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	○						耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	○					放射無線周波数電磁界耐性	耐電圧	防錆	防滴	電源	○				
	金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																						
	○ シリンダー箱錠	○ 握り玉: ステンレス ○ In ¹ -ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)	○ 取付位置 (_____) 実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																						
	○ 本締り錠	シリンダー: ステンレス	実用性能項目 ※ グレード 3 以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																						
	○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス ○ In ¹ -ハンドル: 7%NiCu合金、(○ステンレス、○黄銅)	○ 取付位置 (_____)																																																																																																						
	○ グレモン錠	In ¹ -ハンドル: 亜鉛合金、(○ステンレス)	○ 取付位置 (_____)																																																																																																						
	ケースハンドル錠	ステンレス																																																																																																							
	点検口錠	亜鉛合金程度、(○ステンレス)																																																																																																							
	丁香	ステンレス、(○黄銅)																																																																																																							
	○ ビボットヒンジ	か ¹ -部: ステンレス、(○亜鉛合金)	亜鉛合金は木製建具用のみ																																																																																																						
	点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き																																																																																																						
	○ フロアヒンジ	か ¹ -部: ステンレス、(本体は鋼)	ドアクローザー																																																																																																						
	○ ヒンジ加ザ ¹ - (丁香型)	鋼 (焼付け塗装)	○ 遅延戻り機能付き																																																																																																						
	○ ヒンジ加ザ ¹ - (ビレット型)	か ¹ -部: ステンレス、(本体は鋼)																																																																																																							
○ ドアクローザー	本体: 7%NiCu合金 アム部: 鋼 (焼付け塗装)																																																																																																								
閉鎖順位調整器	ステンレス、(○鋼)																																																																																																								
○ 押棒・押板	(○ステンレス、○黄銅、○合成樹脂)	○ 取付位置 (_____)																																																																																																							
上げ落し (フランス落し)	亜鉛合金程度、(○ステンレス)																																																																																																								
○ アムトッパ ¹ -戸当り	鋼 (クロムめっき)、(○ステンレス) 亜鉛合金程度、(○ステンレス、○黄銅)	○ おり止め付き																																																																																																							
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																																																																																																							
引戸用錠		木製建具の場合 : シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 (_____)																																																																																																							
○ クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (○黄銅)																																																																																																							
引手類																																																																																																									
戸車 (上吊りの場合を除く)																																																																																																									
レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、(○7%NiCu合金 ○黄銅)	黄銅は木製建具用のみ																																																																																																							
種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																				
○																																																																																																									
耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源																																																																																																					
○																																																																																																									
放射無線周波数電磁界耐性	耐電圧	防錆	防滴	電源																																																																																																					
○																																																																																																									
<p>14 自動ドア開閉装置 (5.8.2) ~ (5.8.3)</p>																																																																																																									

5 建具改修工事	<p>15 自閉式上吊り引戸装置 (5.9.3)</p> <p>性能値等の区分 (表5.9.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用戸の総質量(kg)</th> <th>○40以下</th> <th>○40を超えるもの</th> </tr> <tr> <td>手動開き力(N)</td> <td>※15以下 ○</td> <td>※20以下 ○</td> </tr> <tr> <td>手動閉じ力(N)</td> <td>※15以下 ○</td> <td>※20以下 ○</td> </tr> </table> <p>性能等 品質・規格 _____</p>	適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を超えるもの	手動開き力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○	手動閉じ力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○																																						
	適用戸の総質量(kg)	○40以下	○40を超えるもの																																													
	手動開き力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○																																													
	手動閉じ力(N)	※15以下 ○	※20以下 ○																																													
	<p>16 重量シャッター (5.10.2) ~ (5.10.4)</p> <p>種類 ○ 管理用シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 外壁用防火シャッター (シャッターケース設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 屋内用防火シャッター (シャッターケース設ける) ○ 屋内用防煙シャッター (シャッターケース設ける) 開閉方式 ※ 上部電動式 (手動併用) ○ 上部手動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>めっきの付着量</th> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3302</td> <td>○ Z12又はF12を満足するもの ○</td> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3312</td> <td>○ Z12又はF12を満足するもの ○</td> </tr> </table>	材質	めっきの付着量	○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○																																									
	材質	めっきの付着量																																														
	○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○																																														
	○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○																																														
	<p>17 軽量シャッター (5.11.2) ~ (5.11.4)</p> <p>開閉方式 ○ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ 耐風圧強度 _____ スラット</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>めっきの付着量</th> <th>形状</th> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3312</td> <td>○ Z06又はF06を満足するもの ○</td> <td rowspan="2">○ インターロック形 ○ オーバーラッピング形</td> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3322</td> <td>○ A290を満足するもの ○</td> </tr> </table>	材質	めっきの付着量	形状	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロック形 ○ オーバーラッピング形	○ JIS G 3322	○ A290を満足するもの ○																																							
	材質	めっきの付着量	形状																																													
	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロック形 ○ オーバーラッピング形																																													
	○ JIS G 3322	○ A290を満足するもの ○																																														
	<p>18 オーバーヘッドドア (5.12.2) ~ (5.12.4)</p> <p>セクション材 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ ファイバーグラスタイプ 耐風圧性能 _____ 開閉方式 ※ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ 収納形式 ○ スタンダード形 ○ ローヘッド形 ○ ハイリフト形 ○ パーチカル形 ガイドレール等 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板</p>																																															
	<p>19 ガラス (5.13.2) ~ (5.13.4)</p> <p>材料</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>種類等</th> <th>種別</th> <th>種類等</th> </tr> <tr> <td>○ フロート板ガラス</td> <td></td> <td>○ 強化ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 型板ガラス</td> <td></td> <td>○ 熱線吸収ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 網入板ガラス</td> <td></td> <td>○ 複層ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 線入板ガラス</td> <td></td> <td>○ 熱線反射ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 合わせガラス</td> <td></td> <td>○ 倍強度ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>ガラス溝の大きさ (図5.13.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>面クリアランス</th> <th>エッジクリアランス</th> <th>掛り代</th> </tr> <tr> <td>○ アルミニウム建具</td> <td>※ 建具製造所の仕様による</td> <td>※ 建具製造所の仕様による</td> <td>※ 建具製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>○ 鋼製建具</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ステンレス建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>熱線反射ガラスの映像調整 ○ 行わない ○ 行う (_____)</p>	種別	種類等	種別	種類等	○ フロート板ガラス		○ 強化ガラス		○ 型板ガラス		○ 熱線吸収ガラス		○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス		○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ガラス		○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス		○		○		種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代	○ アルミニウム建具	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による	○ 鋼製建具				○ ステンレス建具	○	○	○	○	○	○
種別	種類等	種別	種類等																																													
○ フロート板ガラス		○ 強化ガラス																																														
○ 型板ガラス		○ 熱線吸収ガラス																																														
○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス																																														
○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ガラス																																														
○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス																																														
○		○																																														
種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代																																													
○ アルミニウム建具	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による	※ 建具製造所の仕様による																																													
○ 鋼製建具																																																
○ ステンレス建具	○	○	○																																													
○	○	○	○																																													

5	20 ガラス留め材 (5.13.2)	<table border="1"> <tr> <th>建 具 の 種 類</th> <th>材 質</th> </tr> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※シーリング材(SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル</td> </tr> <tr> <td>鋼製・軽量鋼製・ステンレス製</td> <td>※シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)</td> </tr> </table> <p>※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。</p>	建 具 の 種 類	材 質	アルミニウム製	※シーリング材(SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル	鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)			
		建 具 の 種 類	材 質								
		アルミニウム製	※シーリング材(SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル								
鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)										
21 ガラスブロック (5.13.5)	<table border="1"> <tr> <th>寸 法 (mm)</th> <th>厚 さ (mm)</th> <th>色 調</th> <th>パター ン</th> <th>防 火 認 定</th> </tr> <tr> <td>x</td> <td>○ ○ 図示</td> <td>○ クリア ○ ｸﾞｰ ()</td> <td></td> <td>※ なし ○ あり</td> </tr> </table> <p>※ 品質規格はJIS A5212 による ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。</p> <p>○ 壁用金属枠及び補強材 _____ ○ 力骨 材質 ※ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 径5.5mmのほしご形状複筋及び単筋 ○ _____ ○ シーリング ※ 表3.7.11による ○ _____ ○ 化粧目地モルタルの色 _____ ○ 金属製化粧カバー 材質 ○ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 図示による ○ _____</p> <p>○ 目地幅の寸法 ○ 平積みの場合 ※ 8mm以上、15mm以下 ○ _____ ○ 曲面積みの場合 ※ 外側15mm以下、内側6mm以上 (曲率半径はカマチ戸の幅寸法の10倍以上) ○ _____</p> <p>○ 伸縮調整目地の位置 ※ 6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮調整目地を設ける。 ○ _____</p> <p>22) 木製建具 (16.7.2) ※ 公共建築工事標準仕様書(H31版)による。</p> <p>建具材の含水率の種別 ○ A種 ※ B種 ○ C種 代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可 フラッシュ戸 表面材の合板の種類及び品質等 ○ メラミン化粧合板 t = 3.0 表面板の厚さ ※ 図示による ○ _____ かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 36mm ○ _____ ふすま 材料の種類 ○ I型 ○ II型 上張りの種類 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ _____ 戸ぶすま 上張りの種類 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____</p>	寸 法 (mm)	厚 さ (mm)	色 調	パター ン	防 火 認 定	x	○ ○ 図示	○ クリア ○ ｸﾞｰ ()		※ なし ○ あり
寸 法 (mm)	厚 さ (mm)	色 調	パター ン	防 火 認 定							
x	○ ○ 図示	○ クリア ○ ｸﾞｰ ()		※ なし ○ あり							
23 ポリカーボネイト樹脂板	<p>種類 _____ 厚さ _____ mm</p>										

6	① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2)(6.9.2) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)(9.5.3) (9.5.4)	<p>木材、木れんが、ビニル床シート、タイル、ゴム床タイル、カーペット、合成樹脂塗床、フローリング、ボード類、タイル、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____</p>
		<p>既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p> <p>天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※ 既存のまま ○ 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p>

6	3 既存床の撤去等 (6.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>工 法</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ ビニル床シート等</td> <td>○ 下地タイルの除去</td> <td>※ 図示による ○ _____</td> </tr> <tr> <td>○ 合成樹脂塗床材</td> <td>○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法</td> <td>※ 図示による ○ _____</td> </tr> <tr> <td>○ フローリング張り床材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 床タイル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 床組</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。</p> <p>改修後の床の清掃範囲 ○ 改修棟全面 ○ 改修室全面 ○ 改修部分のみ ○ 図示による</p> <p>間仕切壁撤去に伴う構造体の補修 ※ 改修標仕4.4.9によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○ 行う ○ 行わない) ○ _____</p> <p>4 既存壁の撤去等 (6.3.2)</p> <p>5) 木下地等 (6.5.1)～(6.5.9)</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">表面仕上げの種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">機械加工</td> <td>○ A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">手加工</td> <td>○ H-A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ H-B種</td> <td>※ 内部造作</td> </tr> <tr> <td>○ H-C種</td> <td>※ 下地材</td> </tr> </table> <p>含水率 下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下)</p> <p>以下に規定されているものは、その規定による。 「製材の日本農林規格」による製材</p> <p>○ 下地用針葉樹製材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>等級</th> <th>形 状</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 1級 ※ 2級</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 造作針葉樹製材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>等級</th> <th>形 状</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 無節 ○ 上小節 ○ 小節 ○ 並</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 広葉樹製材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>等級</th> <th>形 状</th> <th>含水率</th> <th>保存処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 特等 ※ 1等 ○ 2等</td> <td></td> <td>※ 10%以下 ○</td> <td></td> </tr> </table> <p>「製材の日本農林規格」以外の製材 (表12.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>材面の品質</th> <th>防虫処理</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ A種 ○ B種</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 別	工 法	施 工 箇 所	○ ビニル床シート等	○ 下地タイルの除去	※ 図示による ○ _____	○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○ _____	○ フローリング張り床材			○ 床タイル			○ 床組			表面仕上げの種別		適用箇所	機械加工	○ A種		○ B種		○ C種		手加工	○ H-A種		○ H-B種	※ 内部造作	○ H-C種	※ 下地材	使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理				○ 1級 ※ 2級				使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理				○ 無節 ○ 上小節 ○ 小節 ○ 並				使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理				○ 特等 ※ 1等 ○ 2等		※ 10%以下 ○		使用箇所	樹 種	寸 法	材面の品質	防虫処理	含水率				※ A種 ○ B種		
		種 別	工 法	施 工 箇 所																																																																																							
		○ ビニル床シート等	○ 下地タイルの除去	※ 図示による ○ _____																																																																																							
○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○ _____																																																																																									
○ フローリング張り床材																																																																																											
○ 床タイル																																																																																											
○ 床組																																																																																											
表面仕上げの種別		適用箇所																																																																																									
機械加工	○ A種																																																																																										
	○ B種																																																																																										
	○ C種																																																																																										
手加工	○ H-A種																																																																																										
	○ H-B種	※ 内部造作																																																																																									
	○ H-C種	※ 下地材																																																																																									
使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理																																																																																					
			○ 1級 ※ 2級																																																																																								
使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理																																																																																					
			○ 無節 ○ 上小節 ○ 小節 ○ 並																																																																																								
使用箇所	樹 種	寸 法	等級	形 状	含水率	保存処理																																																																																					
			○ 特等 ※ 1等 ○ 2等		※ 10%以下 ○																																																																																						
使用箇所	樹 種	寸 法	材面の品質	防虫処理	含水率																																																																																						
			※ A種 ○ B種																																																																																								
6	6 内装改修工事	<p>使用木材のうち杉、ひのきについては京都府内産木材とする。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材証明書及びウッドマール'002計算書を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 一般財団法人京都府木材組合連合会 TEL : 075-802-2991 注) 証明書は製材所、流通業者の全てが取扱事業体でなければ発行されない。 詳細は上記法人のホームページを参照すること。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。 ※ 京都府木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都府木材規格(KTS)材証明書(発行機関：(一社)京都府木材組合連合会)を提出すること。</p>																																																																																									
		<p>「集成材の日本農林規格」による造作用集成材</p> <p>○ 造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>樹 種</th> <th>見付材面数</th> <th>寸 法</th> <th>見付材面の品質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 1等 ○ 2等</td> </tr> </table> <p>○ 化粧ばり造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>化粧板厚</th> <th>見付材面数</th> <th>見付材面の品質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 1等 ○ 2等</td> </tr> </table> <p>○ 化粧ばり構造用集成柱</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">品 名</th> <th colspan="2">樹 種</th> <th rowspan="2">寸 法</th> <th rowspan="2">化粧板厚</th> <th rowspan="2">見付材面の品質</th> </tr> <tr> <th>化粧材</th> <th>芯 材</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 1等 ○ 2等</td> </tr> </table>	使用箇所	品 名	樹 種	見付材面数	寸 法	見付材面の品質						※ 1等 ○ 2等	使用箇所	品 名	樹 種	寸 法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質							※ 1等 ○ 2等	使用箇所	品 名	樹 種		寸 法	化粧板厚	見付材面の品質	化粧材	芯 材							○ 1等 ○ 2等																																															
使用箇所	品 名	樹 種	見付材面数	寸 法	見付材面の品質																																																																																						
					※ 1等 ○ 2等																																																																																						
使用箇所	品 名	樹 種	寸 法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質																																																																																					
						※ 1等 ○ 2等																																																																																					
使用箇所	品 名	樹 種		寸 法	化粧板厚	見付材面の品質																																																																																					
		化粧材	芯 材																																																																																								
						○ 1等 ○ 2等																																																																																					

6	6 内装改修工事	<p>「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材</p> <p>○ 造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法</th> <th>見付材面の品質</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 15%以下 ○</td> </tr> </table> <p>○ 化粧ばり造作用集成材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>化粧樹種名</th> <th>芯材樹種名</th> <th>寸 法</th> <th>化粧板厚</th> <th>見付材面の品質</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 15%以下 ○</td> </tr> </table> <p>○ 化粧ばり構造用集成柱</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>化粧樹種名</th> <th>芯材樹種名</th> <th>寸 法</th> <th>化粧板厚</th> <th>見付材面の品質</th> <th>含水率</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※ 15%以下 ○</td> </tr> </table> <p>「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材</p> <p>○ 造作用単板積層材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>寸 法</th> <th>表面の品質</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 表面化粧加工なし ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工</td> <td>○ 適用する ○ 適用しない</td> </tr> </table> <p>「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材</p> <p>○ 造作用単板積層材</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>寸 法</th> <th>表面の品質</th> <th>含水率</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 表面化粧加工なし ○ ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工</td> <td>※ 14%以下 ○</td> <td>○ 適用する ○ 適用しない</td> </tr> </table> <p>C L T (直行集成板)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品 名</th> <th>曲げ性能 (強度等級)</th> <th>種 別</th> <th>接着性能 (使用環境)</th> <th>樹 種</th> <th>寸 法 (mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>合板等</p> <p>普通合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>厚 さ</th> <th>樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>板面の品質</th> <th>その他処理</th> </tr> <tr> <td>※ 押入れ、物入れ</td> <td></td> <td>※ 5.5mm ○ _____</td> <td></td> <td>※ 1類 ○ 2類</td> <td>広葉樹 ※ 2等以上 ○ 針葉樹 ※ C-D以上 ○ _____</td> <td>○ 防虫処理 ○ 難燃処理 ○ 防炎処理</td> </tr> </table> <p>構造用合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>等級</th> <th>厚 さ</th> <th>樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>板面の品質</th> <th>保存処理</th> <th>その他処理</th> </tr> <tr> <td>※ 畳床下 地材、70- リッ 張り り下地材</td> <td></td> <td>※ 2級 以上 ○ _____</td> <td>※ 12mm ○ _____</td> <td></td> <td>※ 1類 ○ 特類</td> <td>※ C-D 以上 ○ _____</td> <td></td> <td>○ 防虫処理 ○ 強度等級</td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 名</th> <th>厚 さ</th> <th>単板の樹種名</th> <th>接着程度</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 1類 ○ 特類</td> <td></td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による天然化粧合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>化粧板に使用する 単板の樹種名</th> <th>厚 さ</th> <th>接着程度</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 1類 ○ 2類</td> <td></td> </tr> </table> <p>「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>品 目</th> <th>厚 さ</th> <th>接着程度</th> <th>単板の樹種名</th> <th>化粧加工 の方法</th> <th>防虫処理</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 1類 ○ 2類</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>パーティクルボード</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">使用箇所</th> <th rowspan="2">厚 さ</th> <th colspan="2">各種区分</th> </tr> <tr> <td>※ 13Pタイプ又は13Mタイプ ○ _____</td> <td></td> </tr> </table> <p>構造用パネル</p> <table border="1"> <tr> <th>使用箇所</th> <th>等 級</th> <th>厚 さ</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	使用箇所	樹 種	寸 法	見付材面の品質	含水率					※ 15%以下 ○	使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸 法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率							※ 15%以下 ○	使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸 法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率							※ 15%以下 ○	使用箇所	品 名	寸 法	表面の品質	防虫処理				○ 表面化粧加工なし ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	○ 適用する ○ 適用しない	使用箇所	寸 法	表面の品質	含水率	防虫処理			○ 表面化粧加工なし ○ ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	※ 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない	施工箇所	品 名	曲げ性能 (強度等級)	種 別	接着性能 (使用環境)	樹 種	寸 法 (mm)								使用箇所	品 名	厚 さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理	※ 押入れ、物入れ		※ 5.5mm ○ _____		※ 1類 ○ 2類	広葉樹 ※ 2等以上 ○ 針葉樹 ※ C-D以上 ○ _____	○ 防虫処理 ○ 難燃処理 ○ 防炎処理	使用箇所	品 名	等級	厚 さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理	※ 畳床下 地材、70- リッ 張り り下地材		※ 2級 以上 ○ _____	※ 12mm ○ _____		※ 1類 ○ 特類	※ C-D 以上 ○ _____		○ 防虫処理 ○ 強度等級	使用箇所	品 名	厚 さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理					○ 1類 ○ 特類		使用箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚 さ	接着程度	防虫処理				○ 1類 ○ 2類		使用箇所	品 目	厚 さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工 の方法	防虫処理				○ 1類 ○ 2類				使用箇所	厚 さ	各種区分		※ 13Pタイプ又は13Mタイプ ○ _____		使用箇所	等 級	厚 さ			
		使用箇所	樹 種	寸 法	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																																				
						※ 15%以下 ○																																																																																																																																																				
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸 法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																																				
						※ 15%以下 ○																																																																																																																																																				
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸 法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																																				
						※ 15%以下 ○																																																																																																																																																				
使用箇所	品 名	寸 法	表面の品質	防虫処理																																																																																																																																																						
			○ 表面化粧加工なし ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	○ 適用する ○ 適用しない																																																																																																																																																						
使用箇所	寸 法	表面の品質	含水率	防虫処理																																																																																																																																																						
		○ 表面化粧加工なし ○ ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	※ 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない																																																																																																																																																						
施工箇所	品 名	曲げ性能 (強度等級)	種 別	接着性能 (使用環境)	樹 種	寸 法 (mm)																																																																																																																																																				
使用箇所	品 名	厚 さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理																																																																																																																																																				
※ 押入れ、物入れ		※ 5.5mm ○ _____		※ 1類 ○ 2類	広葉樹 ※ 2等以上 ○ 針葉樹 ※ C-D以上 ○ _____	○ 防虫処理 ○ 難燃処理 ○ 防炎処理																																																																																																																																																				
使用箇所	品 名	等級	厚 さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理																																																																																																																																																		
※ 畳床下 地材、70- リッ 張り り下地材		※ 2級 以上 ○ _____	※ 12mm ○ _____		※ 1類 ○ 特類	※ C-D 以上 ○ _____		○ 防虫処理 ○ 強度等級																																																																																																																																																		
使用箇所	品 名	厚 さ	単板の樹種名	接着程度	防虫処理																																																																																																																																																					
				○ 1類 ○ 特類																																																																																																																																																						
使用箇所	化粧板に使用する 単板の樹種名	厚 さ	接着程度	防虫処理																																																																																																																																																						
			○ 1類 ○ 2類																																																																																																																																																							
使用箇所	品 目	厚 さ	接着程度	単板の樹種名	化粧加工 の方法	防虫処理																																																																																																																																																				
			○ 1類 ○ 2類																																																																																																																																																							
使用箇所	厚 さ	各種区分																																																																																																																																																								
		※ 13Pタイプ又は13Mタイプ ○ _____																																																																																																																																																								
使用箇所	等 級	厚 さ																																																																																																																																																								
6	6 内装改修工事	<p>6) 経量鉄骨天井下地 (6.6.2)～(6.6.4)</p> <p>野縁等の種類 屋内 ※ 19型 ○ 25型 (表6.6.1) 屋外 ○ 19型 ※ 25型</p> <p>野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 _____ mm 周辺部の端からの寸法 _____ mm 野縁の間隔 _____ mm はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し 既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う (箇所以上、 ___N/箇所) ○ 行わない</p> <p>開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ _____ 天井のふとこの補強 (1.5m以上3m以下) ※ 行う (3mを超える) ※ 行う (図示による)</p> <p>天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない</p> <p>スタッド、ランナー等の種類 (表6.7.1) ※ 表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ _____ スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示による ○ _____</p>																																																																																																																																																								
		<p>7) 経量鉄骨壁下地 (6.7.3)</p> <p>8) ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)</p> <p>○ ビニル床シート</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>種 類</th> <th>記号</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>色 柄</th> <th>工 法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>発泡層無</td> <td>○ 単層ビニル床シート</td> <td>T S</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 発泡層有</td> <td>※ 複層ビニル床シート</td> <td>F S</td> <td>○ 2.5 ※ 2.0</td> <td>※ 無地</td> <td>※ 熱溶接</td> <td>※ 仕上による</td> </tr> <tr> <td>○ 発泡層有</td> <td>○ 発泡複層ビニル床シート</td> <td>H S</td> <td>○</td> <td>○ マーブル</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 発泡層有</td> <td>○ クッションフロア</td> <td>K S</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ ビニル床タイル</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>種 類</th> <th>記号</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>色 柄</th> <th>寸 法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>接合形</td> <td>※ コンジョイントビニル床タイル</td> <td>K T</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 接合形</td> <td>○ 単層ビニル床タイル</td> <td>T T</td> <td>○ 2.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 接合形</td> <td>○ 複層ビニル床タイル</td> <td>F T</td> <td>※ 2.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 接合形</td> <td>○ 置ききビニル床タイル</td> <td>F O A</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 接合形</td> <td>○ 薄型置ききビニル床タイル</td> <td>F O B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	工 法	施工箇所	発泡層無	○ 単層ビニル床シート	T S					○ 発泡層有	※ 複層ビニル床シート	F S	○ 2.5 ※ 2.0	※ 無地	※ 熱溶接	※ 仕上による	○ 発泡層有	○ 発泡複層ビニル床シート	H S	○	○ マーブル	○		○ 発泡層有	○ クッションフロア	K S					区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	寸 法	施工箇所	接合形	※ コンジョイントビニル床タイル	K T					○ 接合形	○ 単層ビニル床タイル	T T	○ 2.5				○ 接合形	○ 複層ビニル床タイル	F T	※ 2.0				○ 接合形	○ 置ききビニル床タイル	F O A	○				○ 接合形	○ 薄型置ききビニル床タイル	F O B																																																																															
区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	工 法	施工箇所																																																																																																																																																				
発泡層無	○ 単層ビニル床シート	T S																																																																																																																																																								
○ 発泡層有	※ 複層ビニル床シート	F S	○ 2.5 ※ 2.0	※ 無地	※ 熱溶接	※ 仕上による																																																																																																																																																				
○ 発泡層有	○ 発泡複層ビニル床シート	H S	○	○ マーブル	○																																																																																																																																																					
○ 発泡層有	○ クッションフロア	K S																																																																																																																																																								
区分	種 類	記号	厚さ(mm)	色 柄	寸 法	施工箇所																																																																																																																																																				
接合形	※ コンジョイントビニル床タイル	K T																																																																																																																																																								
○ 接合形	○ 単層ビニル床タイル	T T	○ 2.5																																																																																																																																																							
○ 接合形	○ 複層ビニル床タイル	F T	※ 2.0																																																																																																																																																							
○ 接合形	○ 置ききビニル床タイル	F O A	○																																																																																																																																																							
○ 接合形	○ 薄型置ききビニル床タイル	F O B																																																																																																																																																								

特記事項	

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所	
- SCALE -				SCALE	
改修工事特記仕様書 5				野中建築設計事務所	
1級建築士第147931号 野中健一					
DW.	CK.	NO.	DATE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	
	A - 05		03-09		

6 内装改修工事	○帯電防止床シート ○帯電防止タイル			
	種 類	性 能	厚 さ (mm)	
	○	※ 体積抵抗値 1.0×10 ⁹ Ω以下	○	
	○視覚障害者用床タイル			
	種 類	形 状	備 考	
	○塩化ビニル系	※ 300mm角	○	
	○レジンコンクリート系	○ 150mm角	○	
	○磁器又はせつ器質タイル	○	○	
	○耐動荷重性床シート			
	種 類	厚 さ (mm)	備 考	
○	○	○		
○防滑性床シート ○防滑性床タイル				
種 類	寸 法	厚 さ (mm)		
○	○	○		
○ビニル幅木				
種 類	高 さ (mm)	厚 さ (mm)		
○軟質 ○硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100 ○	※ 1.5 ○ 2.0		
○ゴム床タイル張り				
色 柄	種 類	厚 さ (mm)	寸 法 (mm)	
○	○単層品 ○積層品	○	○	
○織じゅうたん				
種 別	織り方	パイル形状	帯電性 色柄 接合方法 施工箇所	
○A種 ○B種 ○C種	○	○適用 ※無地 ○	○トドメ工法 ○	
○タフテッドカーペット				
パイル形状	パイル長さ(mm)	工 法	帯電性 施 工 箇 所	
○	○	○ケラバ工法 ○全面接着工法	○適用 ○	
○ニードルパンチカーペット				
厚さ(mm)	帯電性	施 工 箇 所		
○	○適用	○		
○タイルカーペット				
種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm) 施 工 箇 所	
※一種 ○二種	※ループパイル ○	※500×500 ○	※6.5 ○	
タイルカーペットの敷き方 平場部分 ※市松敷き ○ 階段部分 ※模様流し ○				
下敷き材 ※JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種2号 呼び厚さ8mm ○				
見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※図示による ○				
10 合成樹脂塗床 (6.10.2) (6.10.3)				
厚膜型塗床材 ○弾性ウレタン樹脂系塗床材 ※平滑仕上げ ○防滑仕上げ ○つや消し仕上げ 塗厚(mm) ○				
○エポキシ樹脂系塗床材 ※薄膜流しのべ工法 (○平滑 ○防滑) ○厚膜流しのべ工法 (○平滑 ○防滑) ○樹脂モルタル工法 (○平滑 ○防滑)				
薄膜型塗床材 ○エポキシ樹脂系塗床材				
11 フローリング張り (6.11.2) (6.11.6)				
単層フローリング (表6.11.1)~(表6.11.6)				
種 類	樹 種	厚 さ (mm)	大 き さ 工 法 備 考	
○フローリング	※なら ○	○15 ○12 ○8	○表6.11.1 ○表6.11.3 ○表6.11.5	
○フローリング	※なら ○	○8 ○15 ○	○釘留め工法 ○根太張り工法 ○直張り工法 ○接着工法 ○防水処理足金物付	

6 内装改修工事	複合フローリング			
	種 類	樹 種	厚 さ (mm)	工 法 種 別 備 考
	○1×6タイプ	※なら ○	○8 ○15	○釘留め工法 ○根太張り工法 ○直張り工法 ○接着工法
	○フローリングボードタイプ ○			
	接着工法のフローリング裏面の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート ○			
	仕上げ塗装 ○ウレタン樹脂ワニス塗り(1液形)B種 ○オイルステインの上ワックス塗り ○生地のままワックス塗り ○			
	種別 ○A種 ○B種 ○C種 ○D種(KT-___)			
	種別 ※表6.13.11によるJIS規格品とする (表6.13.1)			
	種 類	規 格、厚 さ (mm) 等		
	●せっこうボード(GB-R)	※12.5(不燃) ○9.5(準不燃)		
○化粧せっこうボード(GB-D)	○杉板模様	○12.5(不燃)		
	○トラバーチン模様 (軽鉄下地は専用のものとする)	○		
○不燃積層せっこうボード(GB-NC)	○トラバーチン模様	※9.5(不燃)		
	○模様なし	○		
○シーリングせっこうボード(GB-S)	○15(不燃) ○12.5(準不燃) ※9.5(準不燃)	○		
○強化せっこうボード(GB-F)	○21(不燃) ○15(不燃) ○12.5(不燃)	○		
○ロックウール吸音ボード(RW-B)	※25 ○	○		
○グラスウール吸音ボード(GW-B)	※25 ○	○		
○吸音あなきせっこうボード(GB-P)	○9.5(準不燃)	○		
○ロックウール化粧吸音板(DR)	内部用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃) 野天用 フラット ○12(不燃) ※9(不燃) 立体模様 ○15(不燃) ※12(不燃)	○		
○けい酸カルシウム板(0.8FK)	タイプ2(無石綿) ○8.0 ○6.0 ○	○		
○メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による ※1.2	○		
○難燃木毛セメント板	○30 ○25 ○20 ○15	○		
○断熱木毛セメント板	○30 ○25 ○20 ○15	○		
○普通合板	厚さ 接着の程度 表板樹種	○		
	板面の品質 防虫処理○行う	○		
○天然木化粧合板	厚さ 接着の程度 化粧板樹種 ○なら ○しおじ 防虫処理○行う	○		
○特殊加工化粧合板	厚さ 接着の程度 表面性能 ○F ○FW ○W ○WS 防虫処理○行う	○		
○その他下張り用合板		○		
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ○アクリル系シーリング ○ウレタン系シーリング ○ジョイントコンパウンド合板類の張付け (表6.13.3)				
○A種 ※B種				
せっこうボードの目地処理 (表6.13.5)				
○継目処理 ○突付け ○目透かし				
防火性能・種類・規格・施工箇所 ※図示による ○下表による				
施 行 箇 所	防火性能	品 質 ・ 規 格		
壁上部		SP版		
下地調整 モルタル及びプラスター面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.4) コンクリート面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.5) せっこうボード面 ○RA種 ※RB種 (表7.2.7)				
材質 ○アルミニウム製 ●塩化ビニル製				
●モルタル ●現場調査材料 ○既調合材料 ()				
既製目地材 ○適用する (形状)				
床塗り 目地の種類 ※押目地 ○ 目地割り ※2m程度 ○ 最大目地間隔 ※3m程度 ○				
12 畳敷き (6.12.2)				
⑬せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2) (6.13.3)				
⑭壁紙張り (6.14.2) (6.14.3)				
⑮天井廻り縁				
⑯モルタル塗り (6.15.2) (6.15.6)				

6 内装改修工事	17 タイル張り (6.16.2) (6.16.4)			
	伸縮調整目地等 床面 ※縦・横とも4m以内ごと ○ 壁面 ※図示による ○			
	施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○行わない			
	タイルの種類			
	施工箇所・形状・タイルの種類	寸法(mm)	生地 釉薬 耐凍害性 耐滑り性 役物 色	工法 その他
			○磁器 ○陶器 ○せつ器	○無釉 ○施釉 ○有り ○無し ○標準 ○特注
			○磁器 ○陶器 ○せつ器	○無釉 ○施釉 ○有り ○無し ○標準 ○特注
			○磁器 ○陶器 ○せつ器	○無釉 ○施釉 ○有り ○無し ○標準 ○特注
	タイルの試験張り ○行わない ○行う			
	タイルの見本焼き ○行わない ○行う			
○既調合モルタル				
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○目荒し工法 ○				
18 セルフレベリング材塗り(6.17.2)				
※種類及び品質は表6.17.11による				
種類 ○せっこう系 ○セメント系				
厚さ(mm) ○10 ○15 ○				
7 塗装改修工事				
①塗装材料 (7.1.3)				
塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※F☆☆☆☆ ○				
②下地調整 (7.2.1) (7.2.7)				
塗替えで下地調整の種類がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※塗替え面積の30% ○図示 (表7.2.1)~(表7.2.7)				
素 地 種 別 備 考				
木部		○RA種 ※RB種 ○RC種		
鉄鋼面		○RA種 ※RB種 ○RC種		
垂鉛めっき鋼面		○RA種 ※RB種 ○RC種		
モルタル及びプラスター面		○RA種 ※RB種 ○RC種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	
コンクリート面及びALCパネル面		○RA種 ※RB種 ○RC種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	
コンクリート面及び押出成形セメント面		○RA種 ○RB種 ○RC種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	
せっこうボード及びその他ボード面		○RA種 ※RB種 ○RC種		
3 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)				
錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4)				
塗面	種別	屋外 屋内	規格名称 塗料種類 塗装工程種別 備考	
鉄	A種	※	※鉛・カドミウムさび止め 1種 新規鉄鋼面 見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種	
鋼	B種	-	○水系さび止め - ○A種 ※B種 ○C種 EP-G塗	
面	B種	-	○鉛・カドミウムさび止め 2種 塗替え ○A種 ○B種 ※C種	
垂鉛めっき鋼面	A種	※	※一液形変性エポキシ樹脂さび止め - ○A種 ○B種 ○C種 新規鋼製建具 ※A種 ○B種 ○C種	
	B種	○	○変成球状樹脂アクリル塗替え ○A種 ○B種 ※C種	
	C種	-	○水系さび止め - ○A種 ○B種 ※C種 EP-G塗	

7 塗装改修工事	4 塗装工程 (7.4.2) (7.15.2)			
	工程の種類 (表7.4.1)~(表7.14.1)			
	記号	名 称	種 別	
	SOP	合成樹脂調査	木部	新規外部 ※A種 ○B種 ○C種
		ペイント塗り	新規内部	○A種 ※B種 ○C種
		種類 ※1種 ○	塗替え	○A種 ※B種(外部の場合工程3工程4は行わない) ○C種
			鉄鋼面	○A種 ※B種 ○C種
			垂鉛めっき鋼面	鋼製建具 ※A種 ○B種 ○C種
			塗替え	○A種 ※B種 ○C種
			その他塗替え・新規	○A種 ※B種 ○C種
CL	ケ行カ塗り	○A種 ※B種		
FE	フッ酸樹脂珪酸エマルジョン塗り	木部	表7.6.1	
		鉄鋼面及び垂鉛めっき鋼面	表7.6.2	
NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	○A種 ※B種		
DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面	○A種 ○B種 ○C種	
		垂鉛めっき鋼面	○A種 ○B種 ○C種	
		コンクリート面及び押出成形セメント面	○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種	
		上塗り	○1級 ふっ素樹脂系等 ○2級 シリコン系等 ○3級 ポリウレタン系等	
EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り	コンクリート面、プラスター面、モルタル面、せっこうボード面、その他ボード面	○A種 ※B種 ○C種 しみ止め ○ しみ止めシーラー (B種及びC種の場合)	
		木部	新規 ※A種 ○B種 ○C種	
		塗替え	○A種 ※B種 ○C種	
		鉄鋼面	○A種 ※B種 ○C種	
		垂鉛めっき鋼面	○A種 ※B種 ○C種	
EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	○A種 ※B種 ○C種 しみ止め ○ しみ止めシーラー (B種及びC種の場合)		
EP-T	合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り	○A種 ※B種 ○C種		
UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	○A種 ※B種		
OS	オイルワニス塗り	表7.13.1		
WP	木材保護塗料塗り	○A種 ※B種		
8 1 耐震補強工事 (鉄筋工事)				
1 鉄筋の種類 (8.2.1)				
	異形鉄筋	種類の記号	径(mm) 備 考	
		※SD295A	D16以下	
		※SD345	D19以上	
		○		
※SD295AはF _o :21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する				
2 溶接金網 (8.2.2)				
網目の形状、寸法 鉄筋の径(mm)				
3 鉄筋の継手 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3)				
部 位	接 合 方 法	径 (mm)		
○	○重ね継手 ○ガス圧接継手	D19以上		
○	○機械式継手 ○溶接継手	D16以下		
○	○重ね継手 ○ガス圧接継手	D16以下		
○	○機械式継手 ○溶接継手			
○機械式継手 適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき ※構造図による 施工完了後の継手部の試験 ※行う ○行わない 不合格となった継手部への措置等 ※監督職員と協議する				
○溶接継手 適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき ※構造図による 溶接完了後の溶接部の試験 ※行う ○行わない 不合格となった溶接部への措置等 ※監督職員と協議する				
○柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※構造図による ○ 不合格となった溶接部への措置等 ※構造図による ○表8.3.4による				
○鉄筋の定着長さ ※構造図による ○表8.3.4による				
○帯筋組立の形、継手及び定着 ※構造図による				

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項			
8-1	耐震補強工事 (鉄筋工事)	4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※ 構造図による ○表8.3.6による(次の2項目のかぶり厚さを除く。) ○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。	5 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)	合板の規格 ※「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 ○ 合板の材質 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ(mm) ※ 12 ○	8-3	耐震補強工事 (あと施工アンカー工事)	1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)	○ 金属系アンカー 引張耐力 _____ セン断耐力 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ セッ方式 ※ 本体打込み式改良型 ○ 種類 _____ 長さ _____ 接合筋 径 _____	8-4	耐震補強工事 (鉄骨工事)	11 溶接作業における技能資格者 (8.15.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○ _____	
		5 圧接完了後の試験 (8.3.8)	試験方法 ○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。	打放し仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 (表8.1.4) 種別 板面の品質 施工箇所 ○ A種 ※8.2.7(2)(7) ○ ○ B種 ※8.2.7(2)(4) ○ ○ C種 ※8.2.7(2)(4) ○ ○ 合板せき板を用いない場合 せき板の材料 _____	2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7)			○ 接着系アンカー 引張耐力 _____ セン断耐力 _____ 種類 ※ カプセル型回転・打撃式 ○ アンカー筋 ※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼 種類 _____ 径 _____ 埋込み長さ _____ 新設壁内への定着長さ _____	12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)			開先の形状 ○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ _____ エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 切断する箇所及び切断範囲 ※ 図示による ○ _____ 切断面の仕上げ ※ グラインダーにより、粗さ 100μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1mm 程度以下に仕上げる		
8-2	耐震補強工事 (コンクリート工事)	1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)	コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類 ○ 普通コンクリート 打設部位 (Fc(N/mm ²) スランプ(cm) 備考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○ ○ 軽量コンクリート 打設部位 (適用箇所) (Fc(N/mm ²) スランプ(cm) 備考 ○ 21 ○ ※ 21 ○	6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)	※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する	8-4	耐震補強工事 (鉄骨工事)	2 鉄骨の製作工場 (8.1.5)	○ 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国機構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(OSHOMORU)グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場	8-14	耐震補強工事 (コンクリート工事)	13 溶接部の試験 (8.15.12)	○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○ 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○	
		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種(施工箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種(施工箇所 _____)	7 軽量コンクリート (8.9.1)	常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種類 ○ 1種 ○ 2種 気乾単位容積質量 _____ t/m ³			3 鋼材の種類 (8.2.8)	種類等の記号 使用箇所 規格等 SS400 _____ JIS G 3101 SM400A _____ JIS G 3106 SN400A _____ JIS G 3136			14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.17.2) (8.17.4)	塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ _____ ○ 垂鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ _____ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限り) ○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ _____ 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない ○ 行う(塗装範囲 ○ 図示による ○ _____)	
8-3	耐震補強工事 (コンクリート工事)	3 構造体強度補正值 (8.2.5)	※ 気温による構造体強度補正值(S) (表8.2.4)	8 暑中コンクリート (8.10.2)	※ 暑中における構造強度補正值(S)	8-14	耐震補強工事 (鉄骨工事)	4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)	ボルトの種類 ○ トルシア形高力ボルト(建築基準法の認定品) ○ JIS形高力ボルト(JIS B 1186) 2種(F10T) ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト(建築基準法の認定品、1種(F8T)) ねじの呼び _____ すべり係数試験 ○ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○ _____ JIS形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 _____	8-15	耐震補強工事 (鉄骨工事)	15 耐火被覆 (8.18.2) ~ (8.18.9)	種類 性能 ○ 30分耐火 ○ 1時間耐火 ○ 2時間耐火 ○ 3時間耐火	
		4 構造体用モルタル (8.2.6)	モルタル圧縮強度 _____ フロー値 _____	9 寒中コンクリート (8.11.2)	※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には仕様第6章第11節(寒中コンクリート)による。			5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)	摩擦面の処理 ○ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上) ○ りん酸塩処理 ○ 図示による(_____) すべり耐力等の確認方法 ○ _____ 試験方法等 ○ 図示による ○ _____			16 アンカーボルト (7.10.3) による。	適用 ※ 公共建築工事標準仕様書(031版) 材質 ○ SNR400B ○ _____ アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ _____ ○ 建方用アンカーボルト 材質 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種別 ○ A種 ○ B種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm	
	特記事項		11 コンクリート車等の過積載防止対策等	受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。	10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)	コンクリートの種類 ※ 普通コンクリート ○ 設計基準強度 ※ 18N/mm ² ○ スランプ ※ 15cm又は18cm ○ セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種 ○ フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ○ 図示による(_____)	7 スタッド (8.2.11)	種類等 呼び名 呼び長さ(mm) 適用箇所 ・16 _____ ・19 _____ ・22 _____	8 工作図 (8.13.2)	高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁線距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)	9 ボルト孔 (8.13.8)	母屋又は副縁の取付けに使用する普通ボルトの孔型 ※ ねじの呼び径 +1.0 mm ○ _____	10 仮組 (8.13.10)	○ 実施する 部位 (_____) ○ 実施しない

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

SCALE _____

改修工事特記仕様書 7

DW. _____ CK. _____ NO. _____ DATE _____

A - 07 03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
1級建築士第147931号 野中健一
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																
8-5 耐震補強工事(グラウト)	<p>1 グラウト材 (8.2.12)</p> <p>グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ _____</p> <p>無収縮モルタルの調査 ※ 製造所で調査されたプレミックスタイプ ○ 現場調査</p> <p>無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm²) ※ 30以上 ○ _____ ※ 一般部コンクリートと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁部部) コンステナーJ14中値(秒) ※ 6~10 ○ _____ 乾燥収縮 (10⁻⁴) ※ 0 ○ _____</p> <p>※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない</p> <p>2 柱底等の均しモルタル(8.2.12) ※ 公共建築工事標準仕様書(93年版)(7.2.9)(7.10.3)による。</p> <p>モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ _____ 材料の調査等 ※ 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 ○ _____ 厚さ ※ 図示による ○ _____ 工法 ※ A種 ○ B種</p>	8-7 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)	<p>1 補強工法</p> <p>○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 (_____)</p> <p>○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 (_____)</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.22.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8.22.3)</p> <p>目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>4 既存構造体との取合い (8.22.7)</p> <p>割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に纏うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による</p> <p>5 仕上げ (8.22.9)</p> <p>※ 図示による ○ _____</p>	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	<p>6 連続繊維補強工法 (8.2.13)(8.24.6)</p> <p>工法 ○ (一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ _____ ○ _____</p> <p>材料 ○ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○ ガラス繊維 性能 引張強度 _____ N/mm² ヤング係数 _____ N/mm²</p> <p>製造所 _____ 製品名 _____</p> <p>柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※ 20mm以上 ○ _____ アラミド繊維シート ※ 10mm以上 ○ _____</p> <p>仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ 剥離除去は行わない ひび割れ部改修 ○ コンクリート打放し仕上げ ※ 樹脂注入工法 ○ 剥離仕上げ ※ 樹脂注入工法</p> <p>炭素繊維の目付量 ※ 図示による ○ _____ 炭素繊維シートの巻数 ※ 図示による ○ _____</p> <p>引張強度試験 ※ 行う 試験数量 (_____) ○ 行わない</p> <p>付着強度試験 ※ 行う 試験数量 (_____) ○ 行わない</p> <p>7 仕上げ (8.23.7)(8.24.7)</p> <p>※ 図示による ○ _____</p>	8-10 耐震補強工事(免震改修)	<p>4 仕上げ (8.26.13)</p> <p>5 耐火被覆 (8.26.14)</p> <p>仕様 _____</p> <p>6 鉄骨ジョイント (8.26.15)</p> <p>仕様 _____ 工法 _____</p> <p>7 検査 (8.26.16)</p> <p>項目 _____ 数量 _____</p> <p>8 維持管理要領 (8.26.17)</p> <p>維持管理要領に記載する項目 ※ 維持管理の目的 ※ 点検種別 (○ 定期点検 ○ 応急点検 ○ 詳細点検) ※ 点検の実施時期 ※ 点検項目 ※ 統括管理体制 ※ 点検・検査結果の保管 ○ _____</p> <p>維持管理に必要な計測機器の設置 ○ 地震計 (仕様 _____) ○ 下げ振り (仕様 _____) ○ けがき板 (仕様 _____) ○ 別置き試験体 (仕様 _____) ○ _____ (仕様 _____)</p>																
8-6 耐震補強工事(現場打ちRC壁の増設工事)	<p>1 補強工法</p> <p>○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 (_____)</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.21.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。</p> <p>設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○ _____ ○ _____</p> <p>既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○ _____ ○ _____</p> <p>はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による</p> <p>3 既存部分の処理 (8.21.3)</p> <p>目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)</p> <p>割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ス/イ鉄筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による</p> <p>開口付増設壁の開口部鉄筋及び増設壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示による</p> <p>5 コンクリートの打込み工法(8.21.8)</p> <p>○ 流込み工法 ○ 圧入工法</p> <p>6 既存構造体との取合い (8.21.9)</p> <p>※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による</p> <p>7 仕上げ (8.21.10)</p> <p>※ 図示による ○ _____</p>	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	<p>1 補強工法</p> <p>○ 溶接金網巻き工法 ○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 帯板巻き付け工法 ○ 連続繊維補強工法 ○ _____</p> <p>2 既存部分の撤去 (8.23.2)</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による</p> <p>設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>3 既存部分の処理 (8.23.3)(8.24.3)</p> <p>目荒し程度 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による</p> <p>柱及び梁の成型(連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※ 30R ○ _____) ○ 図示による</p> <p>4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.23.5)</p> <p>柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ _____ mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法</p> <p>5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)</p> <p>鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合の剥離防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工</p> <p>グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-1による ○ _____ ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm</p>	8-9 耐震補強工事(耐震スリット)	<p>1 耐震スリット新設工事 (8.25.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>方 向</th> <th>タ イ プ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> </tr> <tr> <td>○ 垂直方向</td> <td>※ 完全(全貫通型)スリット</td> <td>○ 耐火型</td> <td>○ 有り</td> </tr> <tr> <td>○ 水平方向</td> <td>○ セン断型部分スリット</td> <td>○ 非耐火型</td> <td>○ 無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>品質・規格 _____</p> <p>既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ _____ スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____</p> <p>既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○ _____</p>	方 向	タ イ プ	耐火性能	防水性能	○ 垂直方向	※ 完全(全貫通型)スリット	○ 耐火型	○ 有り	○ 水平方向	○ セン断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し		○ _____			8-11 耐震補強工事(制振改修)	<p>1 既存部分の撤去 (8.27.2)</p> <p>既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。</p> <p>既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による ○ _____ 方法 ※ 図示による ○ _____ 既存鉄骨の処置方法 _____</p> <p>2 既存部分の処理 (8.27.3)</p> <p>既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。</p> <p>3 減衰材 (8.27.4)(8.27.6)</p> <p>減衰材 材質 _____ 諸元 _____</p> <p>性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____</p> <p>防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____</p> <p>既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ス/イ鉄筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による</p> <p>既存部分が鉄骨造の場合 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に纏うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による</p> <p>4 仕上げ (8.27.8)</p> <p>※ 図示による ○ _____</p> <p>5 検査 (8.27.9)</p> <p>項目 _____ 数量 _____</p>
方 向	タ イ プ	耐火性能	防水性能																				
○ 垂直方向	※ 完全(全貫通型)スリット	○ 耐火型	○ 有り																				
○ 水平方向	○ セン断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し																				
	○ _____																						

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																															
8 12 耐震補強工事(基礎工事)	<p>1 既存部分の処理等 (8.28.2)</p> <p>既存杭の撤去等 <input type="checkbox"/>撤去範囲及び方法 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭頭部の処理 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>既存杭の補強 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>既存杭の健全性を確認する試験 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/></p> <p>2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)</p> <p>埋戻し及び盛土の種類 <input type="checkbox"/>A種 適用箇所 () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>B種 適用箇所 () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>C種 適用箇所 () 土質 () 受渡場所 () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用箇所 () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>その他(材料 工法) <input type="checkbox"/> 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> 山留め壁等の存置箇所 (<input type="checkbox"/>図示 <input type="checkbox"/>)</p> <p>3 杭地業 (8.2.15) (8.28.4)</p> <p>支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭の継手の箇所数、材料、工法等 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭の溶接継手 技能資格者の技量 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>溶接部の確認 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭頭の処理 <input type="checkbox"/>処理する <input type="checkbox"/>処理しない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>処理方法(切断にともなう補強方法含む) <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭頭の中詰め材料 <input type="checkbox"/>基礎のコンクリートと同調合のもの <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭の精度 水平方向の位置ずれ <input type="checkbox"/>杭径の1/4かつ100mm以下 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>杭の傾斜 <input type="checkbox"/>1/100以内 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>記録する施工状況等 <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/></p> <p>4 砂利地業等 (8.2.15)</p> <p>材料 <input type="checkbox"/>再生クラッシュラン <input type="checkbox"/>切込砂利 <input type="checkbox"/>切込砕石 砂利厚さ <input type="checkbox"/>60mm <input type="checkbox"/> 砂地業 <input type="checkbox"/>山砂 <input type="checkbox"/>川砂 <input type="checkbox"/>砕砂 <input type="checkbox"/></p> <p>5 捨コンクリート地業 (8.28.4)</p> <p>捨コンクリートの厚さ <input type="checkbox"/>50mm <input type="checkbox"/></p>	<p>4 移動間仕切 (20.2.4)</p> <p>9 ユニット及びその他の工事</p> <p>5 トイレブース (20.2.5)</p> <p>6 階段滑り止め (20.2.6)</p> <p>7 階段手すり</p> <p>8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)</p> <p>9 鏡 (20.2.9)</p> <p>10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)</p> <p>11 ブラインド (20.2.12)</p> <p>12 ロールスクリーン (20.2.13)</p> <p>13 カーテン (20.2.14)</p>	<p>パネル操作方法による種類</p> <p>パネル表面材・仕上</p> <p>パネル圧接装置の操作方法</p> <p>遮音性能</p> <p>あと施工アンカー 材質 寸法 引抜耐力試験 ※行う</p> <p>表面材 ●メラミン樹脂系化粧板 ○ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ※幅木型 ○足金物型 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆ ドアエッジの材質 ※トイレブース製造所の仕様による ○</p> <p>材種 ○ステンレス製 (SUS304) 幅 ○約35mm ○ 形状 ○ビニルタイヤ入り 両端フットドット ○あり (○ビニル ○SUS304) 取付工法 ※接着工法 ○埋込み工法</p> <p>材種 ○ステンレス製 (SUS304 H L仕上) 径 mm (仕様は金属工事参照) <input type="checkbox"/>集成材 径 mm ○クリアラッカー仕上げ <input type="checkbox"/>ビニル製ハンドレール ※丸型 径 mm ○平型 幅 mm</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 類</th> <th>色 彩</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○黒板</td> <td>※焼付け</td> <td>○鋼製黒板</td> <td>※緑 ○曲面</td> </tr> <tr> <td>○ホワイトボード</td> <td>○</td> <td>○ほうろう黒板</td> <td>○黒 ○スクリーン付引分け</td> </tr> <tr> <td>○ホワイトボード</td> <td>○</td> <td>○ほうろう白板</td> <td>※白 ○曲面</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○スクリーン付引分け</td> </tr> </tbody> </table> <p>緑線金属 ○アルミ製 (表面処理の種類 ○B-2 ○B-1) 品質・規格</p> <p>厚さ(mm) ※5 ○</p> <p>衝突防止表示 <input type="checkbox"/>図示による (市販品 ○ステンレス製 径30mm ○) <input type="checkbox"/>なし 法令に基づく表示 ※非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。</p> <p>室名札</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ(mm)</th> <th>材 質</th> <th>色</th> <th>書 体</th> <th>印刷等の種別</th> <th>取付け形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○5</td> <td>○アクリル板</td> <td>○</td> <td>○角太ゴシック</td> <td>○シルク印刷</td> <td>○平付型</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○アルミ板</td> <td>○</td> <td>○丸</td> <td>○</td> <td>○持出型</td> </tr> </tbody> </table> <p>外国語表現 <input type="checkbox"/>行う (○英語 ○) 寸法(mm) ○50×250 ○60×250 ○図示による</p> <p>ピクトグラフ(便所、車いす、階段等)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ(mm)</th> <th>材 質</th> <th>印刷等の種別</th> <th>取付け形式</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○5</td> <td>○アクリル板</td> <td>○シルク印刷</td> <td>○平付型</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○アルミ板</td> <td>○</td> <td>○持出型</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>寸法(mm) ○150×150 ○図示による</p> <p>案内板(館内、各階、便所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ(mm)</th> <th>材 質</th> <th>色</th> <th>書 体</th> <th>印刷等の種別</th> <th>取付け形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○5</td> <td>○アクリル板</td> <td>○</td> <td>○角太ゴシック</td> <td>○シルク印刷</td> <td>○平付型</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○アルミ板</td> <td>○</td> <td>○丸</td> <td>○</td> <td>○持出型</td> </tr> </tbody> </table> <p>外国語表現 <input type="checkbox"/>行う (○英語 ○) 寸法(mm) ○600×600 ○100×600 ○200×200 ○図示による</p> <p>館名板等 品質・規格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形 式</th> <th>種 類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラット幅(mm)</th> <th>ガラス・レールの材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○横形</td> <td>※ギヤ式</td> <td>※7mm径合金</td> <td>※25</td> <td>※鋼製</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○コード式</td> <td>○</td> <td>○35</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○縦形</td> <td>※2本操作コード式</td> <td>○7mm径</td> <td>○80</td> <td>※7mm径合金製</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○1本操作コード式</td> <td>○7mm径</td> <td>○100</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>操作方法 ○スプリング式 ○コード ○電動式 幅及び高さ スクリーンの材質 ○布製 ○ガラス繊維製 ○木製 品質・規格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取付箇所</th> <th>形 式</th> <th>開閉操作方法</th> <th>カーテン用きれ地の種類</th> <th>ひだの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>シングルプル引</td> <td>電動</td> <td>ひも引</td> <td>フリス</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ダブルプル引</td> <td>電動</td> <td>ひも引</td> <td>フリス</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シングルプル引</td> <td>電動</td> <td>ひも引</td> <td>フリス</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ダブルプル引</td> <td>電動</td> <td>ひも引</td> <td>フリス</td> </tr> </tbody> </table> <p>消防法で定める防火性能の表示があるもの</p>	区 分	種 類	色 彩	備 考	○黒板	※焼付け	○鋼製黒板	※緑 ○曲面	○ホワイトボード	○	○ほうろう黒板	○黒 ○スクリーン付引分け	○ホワイトボード	○	○ほうろう白板	※白 ○曲面	○	○	○	○スクリーン付引分け	厚さ(mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式	○5	○アクリル板	○	○角太ゴシック	○シルク印刷	○平付型	○	○アルミ板	○	○丸	○	○持出型	厚さ(mm)	材 質	印刷等の種別	取付け形式	備 考	○5	○アクリル板	○シルク印刷	○平付型		○	○アルミ板	○	○持出型		厚さ(mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式	○5	○アクリル板	○	○角太ゴシック	○シルク印刷	○平付型	○	○アルミ板	○	○丸	○	○持出型	形 式	種 類	スラットの材質	スラット幅(mm)	ガラス・レールの材質	○横形	※ギヤ式	※7mm径合金	※25	※鋼製	○	○コード式	○	○35	○	○縦形	※2本操作コード式	○7mm径	○80	※7mm径合金製	○	○1本操作コード式	○7mm径	○100	○	取付箇所	形 式	開閉操作方法	カーテン用きれ地の種類	ひだの種類		シングルプル引	電動	ひも引	フリス		ダブルプル引	電動	ひも引	フリス		シングルプル引	電動	ひも引	フリス		ダブルプル引	電動	ひも引	フリス	<p>14 カーテンレール (20.2.14)</p> <p>9 ユニット及びその他の工事</p> <p>15 ブラインドボックス カーテンボックス</p> <p>16 くつふきマット</p> <p>17 鋼製書架及び棚</p> <p>18 収納家具(木製)</p> <p>19 掲示板</p> <p>20 カウンター</p> <p>21 洗面カウンター</p> <p>22 流し台ユニット</p> <p>23 非常用救助袋等</p> <p>24 鍵箱</p> <p>25 車止め</p> <p>26 フェンス</p> <p>10 排水工事</p> <p>1 材料 (21.2.1)</p> <p>2 側塊、排水樹及びふた (21.2.1)</p>	<p>3 緑石 (21.3.1)</p> <p>4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)</p> <p>11 舗装工事</p> <p>1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)</p> <p>2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)</p> <p>3 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)</p> <p>4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)</p> <p>5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)</p>	<p>歩道境界ブロックのJISによる呼び名 ※A ○ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ○A ○C ○ 砂利地業の厚さ ※100mm ○</p> <p>鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ コンクリート形のJISによる呼び名 ○250A ※250B ○ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○240 ○300A ○360A ○ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²) ※1.8 ○ スランプ(cm) ○1.5 ○1.8 ○ 現場打の鉄筋 種類の記号 ※SD295A ○</p> <p>本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>路床の構成 <input type="checkbox"/>凍上抑制層 厚さ <input type="checkbox"/>図示による () <input type="checkbox"/>透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 <input type="checkbox"/>図示による ○150mm ○ 歩道部 <input type="checkbox"/>図示による ○50mm ○</p> <p>盛土に用いる材料 ○A種 ※B種 ○C種 ○D種 (表3.2.1)</p> <p>路床安定処理 ○行う ○行わない 路床安定処理用材料 ※添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種 類 ○地盤改良材 () ○高炉灰B種 <input type="checkbox"/>普通ポルトランドセメント ○生石灰 特号 ○生石灰 1号 <input type="checkbox"/>フライアッシュセメントB種 ○消石灰 特号 ○消石灰 1号 添加量 kg/m³ 路床土の支持力比(CBR)試験 ○行う (※乱した土 ○乱さない土) 路床締固め度の試験 ※行う(埋戻し部、盛土部) ○行わない</p> <p>路盤の厚さ mm 材料 ○再生クラッシュラン (RC-40,30,20) <input type="checkbox"/>クラッシュラン (C-40,30,20) ○クワック鉄鋼スラグ (CS-40) 路盤締固め度の試験 ※行う</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>舗 装 の 種 類</th> <th>表層(mm)</th> <th>基層(mm)</th> <th>カラー舗装の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※アスファルト舗装</td> <td></td> <td></td> <td>※顔料混入加熱アスファルト混合物</td> </tr> <tr> <td>アスファルト</td> <td>○再生アスファルト(○60~80 ○80~100)</td> <td>○ストレートアスファルト</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>再生加熱アスファルト混合物の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>○一般地域</th> <th>○寒冷地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表層</td> <td>○密粒度アスファルト混合物(13)</td> <td>※密粒度アスファルト混合物(13F)</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○細粒度アスファルト混合物(13)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>施工 <input type="checkbox"/>シールコート ○行わない ○行う(施工範囲) <input type="checkbox"/>シールコート用剤の種類 ○PK-1 ○PK-2 <input type="checkbox"/>アスファルト混合物の抽出試験 ○行う ○行わない <input type="checkbox"/>アスファルト締固め度、厚さの試験 ○行う ○行わない</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コンクリートの種類</th> <th>部 位</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>設計基準強度(N/mm²)</th> <th>スランプ(cm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>早強セメント ※使用しない ○使用する 目地 <input type="checkbox"/>注入目地材料 ※低弾性タイプ ○高弾性タイプ 種類 ○突合せ目地 ○取縮目地 ○伸縮調整目地 ○ 間隔 ○5m程度ごと ○4m程度ごと ○3m程度ごと ○ <input type="checkbox"/>コンクリート版厚さの試験 ※行う</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>部 位</th> <th>配合その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※加熱系7mm径混合物</td> <td></td> <td>○車路</td> </tr> <tr> <td>添加剤 ○着色骨材 ○自然石</td> <td></td> <td>○歩行者</td> </tr> <tr> <td>結合材 ○7mm径 ○石油樹脂(添加量)</td> <td></td> <td>○用通路</td> </tr> <tr> <td>7mm径混合物等の抽出試験</td> <td></td> <td>○適用する ※適用しない</td> </tr> <tr> <td>舗装の厚さ mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○常温系シート工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○常温系塗布工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>着色部の下部 ○アスファルト舗装 ○コンクリート舗装</p>	舗 装 の 種 類	表層(mm)	基層(mm)	カラー舗装の種類	※アスファルト舗装			※顔料混入加熱アスファルト混合物	アスファルト	○再生アスファルト(○60~80 ○80~100)	○ストレートアスファルト		区分	○一般地域	○寒冷地域	表層	○密粒度アスファルト混合物(13)	※密粒度アスファルト混合物(13F)	○	○細粒度アスファルト混合物(13)		コンクリートの種類	部 位	厚さ(mm)	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)						種 類	部 位	配合その他	※加熱系7mm径混合物		○車路	添加剤 ○着色骨材 ○自然石		○歩行者	結合材 ○7mm径 ○石油樹脂(添加量)		○用通路	7mm径混合物等の抽出試験		○適用する ※適用しない	舗装の厚さ mm			○常温系シート工法			○常温系塗布工法		
区 分	種 類	色 彩	備 考																																																																																																																																																																																			
○黒板	※焼付け	○鋼製黒板	※緑 ○曲面																																																																																																																																																																																			
○ホワイトボード	○	○ほうろう黒板	○黒 ○スクリーン付引分け																																																																																																																																																																																			
○ホワイトボード	○	○ほうろう白板	※白 ○曲面																																																																																																																																																																																			
○	○	○	○スクリーン付引分け																																																																																																																																																																																			
厚さ(mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式																																																																																																																																																																																	
○5	○アクリル板	○	○角太ゴシック	○シルク印刷	○平付型																																																																																																																																																																																	
○	○アルミ板	○	○丸	○	○持出型																																																																																																																																																																																	
厚さ(mm)	材 質	印刷等の種別	取付け形式	備 考																																																																																																																																																																																		
○5	○アクリル板	○シルク印刷	○平付型																																																																																																																																																																																			
○	○アルミ板	○	○持出型																																																																																																																																																																																			
厚さ(mm)	材 質	色	書 体	印刷等の種別	取付け形式																																																																																																																																																																																	
○5	○アクリル板	○	○角太ゴシック	○シルク印刷	○平付型																																																																																																																																																																																	
○	○アルミ板	○	○丸	○	○持出型																																																																																																																																																																																	
形 式	種 類	スラットの材質	スラット幅(mm)	ガラス・レールの材質																																																																																																																																																																																		
○横形	※ギヤ式	※7mm径合金	※25	※鋼製																																																																																																																																																																																		
○	○コード式	○	○35	○																																																																																																																																																																																		
○縦形	※2本操作コード式	○7mm径	○80	※7mm径合金製																																																																																																																																																																																		
○	○1本操作コード式	○7mm径	○100	○																																																																																																																																																																																		
取付箇所	形 式	開閉操作方法	カーテン用きれ地の種類	ひだの種類																																																																																																																																																																																		
	シングルプル引	電動	ひも引	フリス																																																																																																																																																																																		
	ダブルプル引	電動	ひも引	フリス																																																																																																																																																																																		
	シングルプル引	電動	ひも引	フリス																																																																																																																																																																																		
	ダブルプル引	電動	ひも引	フリス																																																																																																																																																																																		
舗 装 の 種 類	表層(mm)	基層(mm)	カラー舗装の種類																																																																																																																																																																																			
※アスファルト舗装			※顔料混入加熱アスファルト混合物																																																																																																																																																																																			
アスファルト	○再生アスファルト(○60~80 ○80~100)	○ストレートアスファルト																																																																																																																																																																																				
区分	○一般地域	○寒冷地域																																																																																																																																																																																				
表層	○密粒度アスファルト混合物(13)	※密粒度アスファルト混合物(13F)																																																																																																																																																																																				
○	○細粒度アスファルト混合物(13)																																																																																																																																																																																					
コンクリートの種類	部 位	厚さ(mm)	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)																																																																																																																																																																																		
種 類	部 位	配合その他																																																																																																																																																																																				
※加熱系7mm径混合物		○車路																																																																																																																																																																																				
添加剤 ○着色骨材 ○自然石		○歩行者																																																																																																																																																																																				
結合材 ○7mm径 ○石油樹脂(添加量)		○用通路																																																																																																																																																																																				
7mm径混合物等の抽出試験		○適用する ※適用しない																																																																																																																																																																																				
舗装の厚さ mm																																																																																																																																																																																						
○常温系シート工法																																																																																																																																																																																						
○常温系塗布工法																																																																																																																																																																																						
9 ユニット及びその他の工事	<p>1 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策</p> <p>2 フリーアクセスフロア (20.2.2)</p> <p>3 可動間仕切 (20.2.3)</p>	<p>11 ブラインド (20.2.12)</p> <p>12 ロールスクリーン (20.2.13)</p> <p>13 カーテン (20.2.14)</p>	<p>10 排水工事</p> <p>1 材料 (21.2.1)</p> <p>2 側塊、排水樹及びふた (21.2.1)</p>	<p>11 舗装工事</p> <p>1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)</p> <p>2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)</p> <p>3 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)</p> <p>4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)</p> <p>5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)</p>	<p>本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。</p> <p>収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板、化粧合板、MDF等のホルムアルデヒド等の放散量 ※F☆☆☆☆ 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤ホルムアルデヒド等の放散量 ※F☆☆☆☆ <input type="checkbox"/>含まれる可塑剤 ※7mm径以下等含有しない、難揮発性のもの ○</p> <p>※建設技術評価制度「耐震型7mm径707の開発」の技術評価を取得した製品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施 工 箇 所</th> <th>寸法(mm)</th> <th>フロア高さ(mm)</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重</th> <th>帯電防止性能</th> <th>漏えい抵抗</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>スロープ及びボーダー ※製造所の標準仕様 ○図示による コンセント等の取付け ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) <input type="checkbox"/>配線用取出し用開口 ※対応品又は工場加工品 (施工箇所は図示) <input type="checkbox"/>空調用吹出しパネル ○あり (※固定式 ○可変式 施工箇所は図示) <input type="checkbox"/>※表面仕上げ材の品質、規格等は、標仕19章内装工事による。</p> <p>フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ 衝撃性能 ○ ローリングロード性能 ○ 耐燃焼性能 ○</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>構造形式</th> <th>構成基材</th> <th>表面仕上</th> <th>遮音性</th> <th>寸法・形状</th> <th>パネル内に取付ける建具</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○パネル式</td> <td></td> <td></td> <td>○メラミン樹脂又は</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○スタッド式</td> <td></td> <td></td> <td>○アクリル樹脂焼付</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ダブルパネル式</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆</p>	施 工 箇 所	寸法(mm)	フロア高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗								種 類	構造形式	構成基材	表面仕上	遮音性	寸法・形状	パネル内に取付ける建具	○パネル式			○メラミン樹脂又は				○スタッド式			○アクリル樹脂焼付				○ダブルパネル式			○																																																																																																																																										
施 工 箇 所	寸法(mm)	フロア高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗																																																																																																																																																																																
種 類	構造形式	構成基材	表面仕上	遮音性	寸法・形状	パネル内に取付ける建具																																																																																																																																																																																
○パネル式			○メラミン樹脂又は																																																																																																																																																																																			
○スタッド式			○アクリル樹脂焼付																																																																																																																																																																																			
○ダブルパネル式			○																																																																																																																																																																																			

工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考																				
金属屋根			元旦ビューティー工業		点検口			ナカ工業		天電木材					雑工事	キッチン			サンウェーブ																				
			淀川製鋼所					日本ビット					大建工業								クリナップ																		
			三見金属工業					マンテン													TOTO																		
			セキノ興産																																				
	非金属屋根			タキロン			タイル工事	タイル			INAX									洗面台			TOTO																
				三菱樹脂							TOTO													INAX															
				ダイブラ							ダントー													クリナップ															
	シート防水			早川ゴム			石工事	石			関ヶ原石材									便器			TOTO																
				日新工業							安藤石材店													INAX															
				ダイフレックス							矢橋大理石													KAKUDAN															
	種			積水化学工業			建具工事	アルミニウム製建具			三協立山アルミ		家具工事								化粧鏡			TOTO															
				松下電工																										INAX									
			東洋化学																						アサヒ衛陶														
					木製建具			末永製作所									タオル掛・紙巻器			TOTO																			
																					INAX																		
								大建工業	既製品の場合												アサヒ衛陶																		
製作金物			中村益造商店		ガラス				旭ガラス									ウォールキャビネット			TOTO																		
			中村金属製作所						日本板ガラス																	INAX													
			竹内金物						セントラルガラス																	クリナップ													
	グレーチング			カネソウ					建具金物										ユニオン							室内照明器具			松下電工										
				ダイクレ															美和ロック															東芝ライテック					
				アトラス															ゴール															ヤマギワ					
	既製品手摺			ナカ工業				吹付工事					近住化学											ユニットバス			TOTO												
				アトラス									エスケー化研																			INAX							
				YM工業									アイカ																			クリナップ							
	アルミパネル			三協立山アルミ						内装工事													菊水化学工業							トイレブース・間仕切			小松ウォール						
				トステム																			吉野石膏															文化シッター	
				YKK																			ロンシール工業															コマニー	
軽鉄下地			マンテン			ワーロン																		三和シッター															
			三洋工業			日東紡											ロールブラインド							立川プラインド工業															
			日本フェラス工業			ニチラス																							ニチベイ										
ピクチャーレール			フクビ化学工業			東リ																							トソー										
			中村多喜弥商店			ABC商会											カーテン							サンゲツ															
			大建工業			川島織物																							住之江織物										
カーテンレール			住之江織物			大建工業													川島織物																				
			川島織物			フクビ化学工業									床暖房			松下電工																					
			フクビ化学工業			ブリジストン													大建工業																				
					タジマ											三菱電機																							
					東レ										日本コスモテック																								
					サンゲツ																																		
					大日本印刷																																		
					SINCOL																																		
					アイカ工業																																		
					朝日ウッドテック																																		

注記 対象となる工事種目のみ参考してください

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

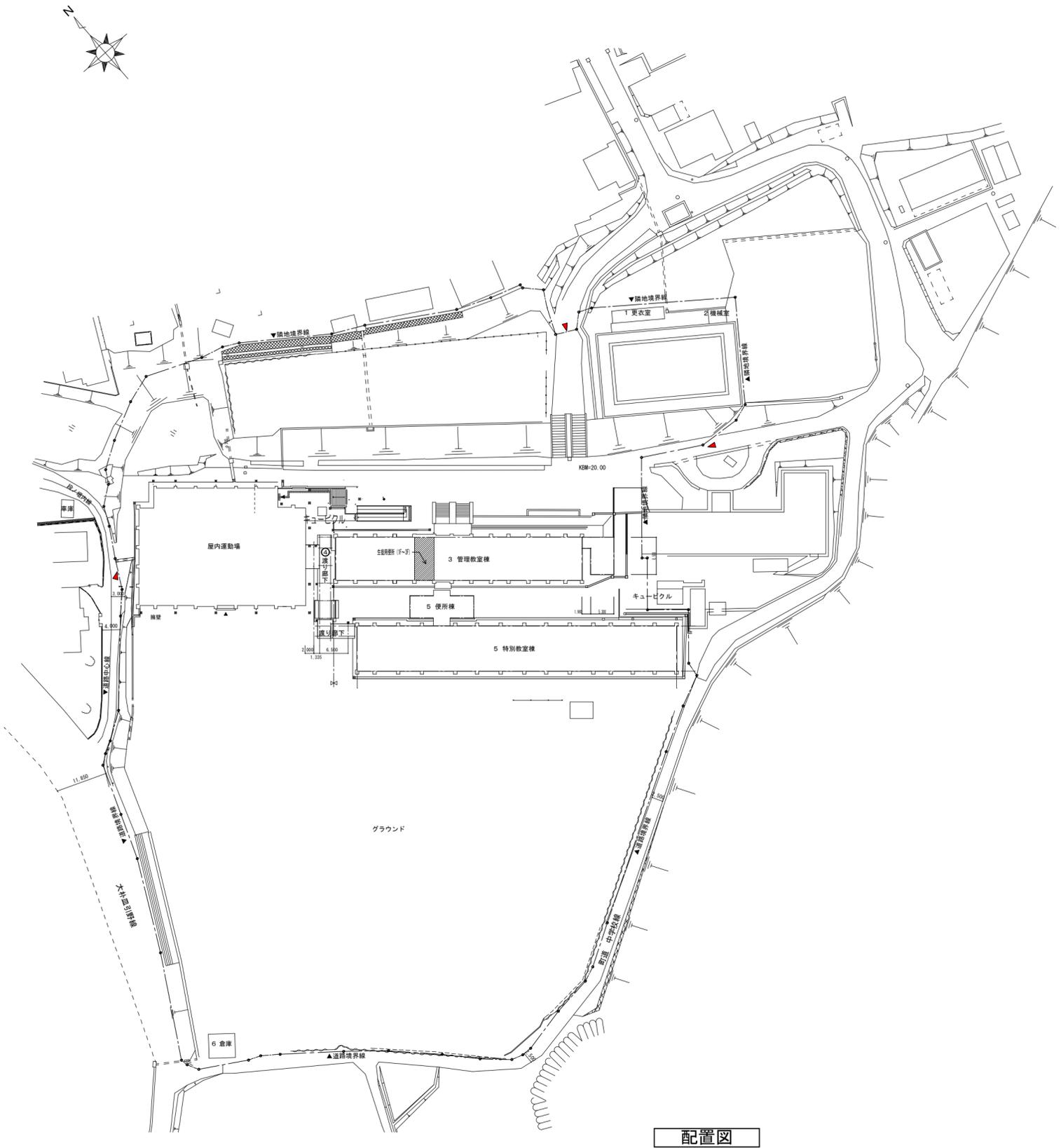
1:non SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
メーカーリスト			
DW.	CK.	NO.	DATE
		A-11	03-09

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



附近見取図

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
1:800 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE	野中建築設計事務所
附近見取図				1級建築士第147931号 野中健一
DW.	CK.	NO.	DATE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
		A-13	03-09	

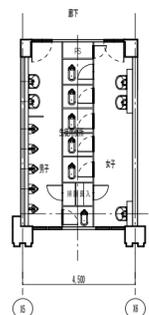


配置図

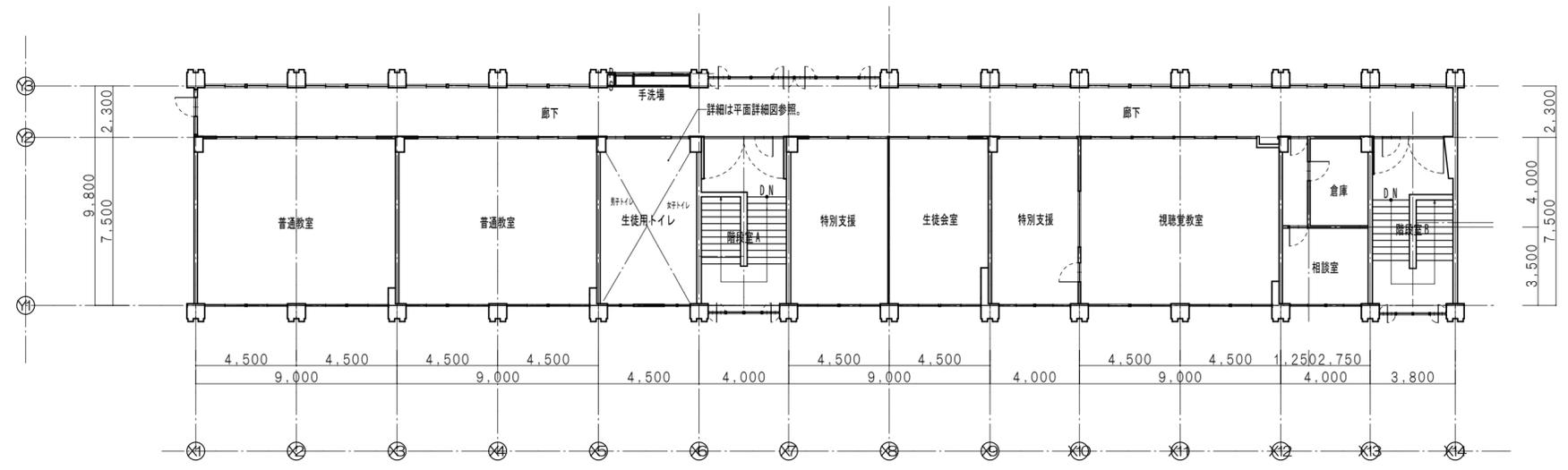
令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

1:800 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
DW.	CK.	NO.	DATE
		A-14	03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
 1級建築士第147931号 野中健一
 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

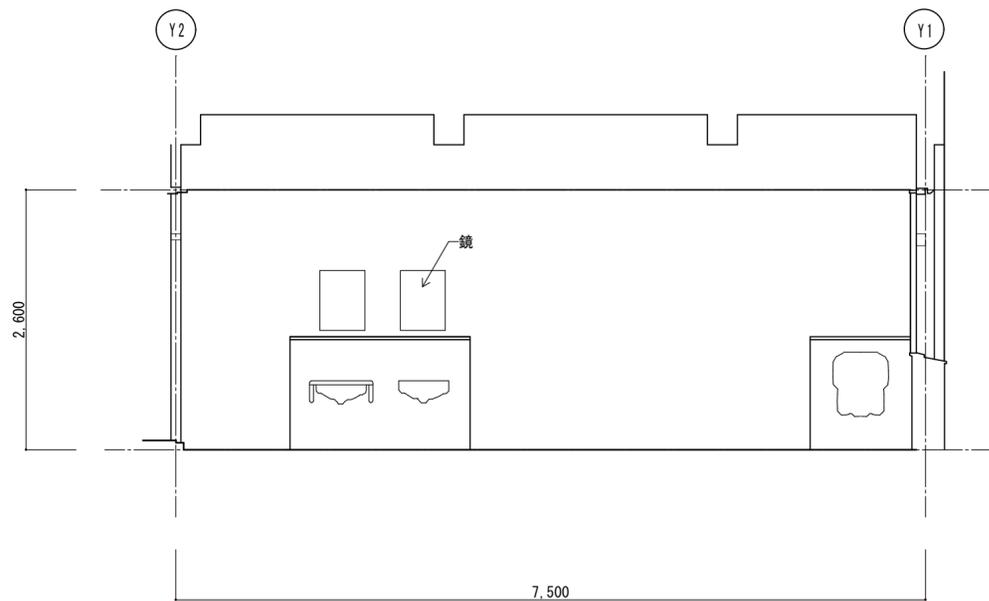


生徒用便所 (2階、3階共通) 現状平面図

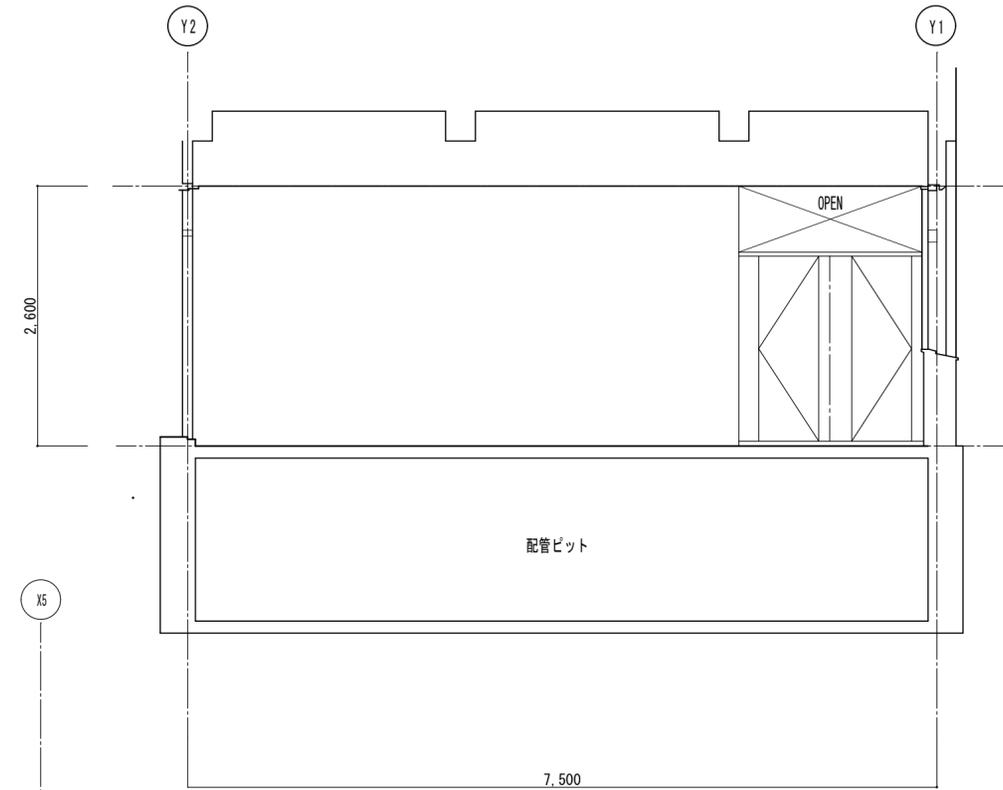


3階平面図 (瑞穂中)

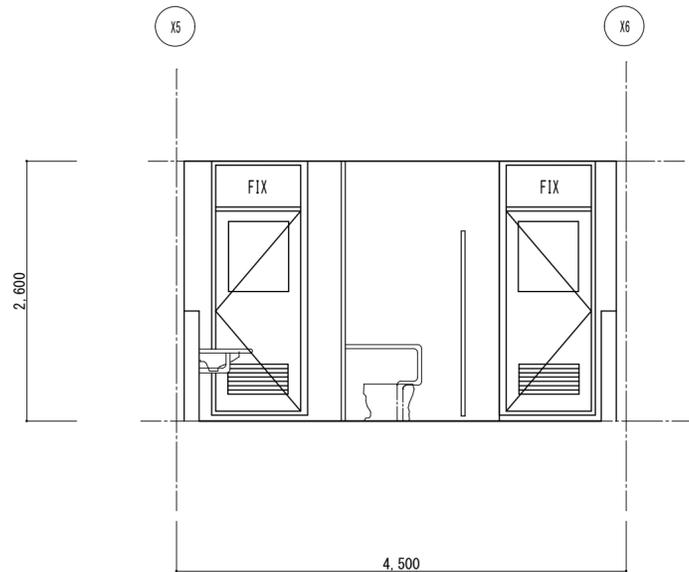
令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
校舎3階平面図				野中建築設計事務所
1:200 SCALE				1級建築士第147931号 野中健一
DW.	CK.	NO.	DATE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408
		A-16	03-09	



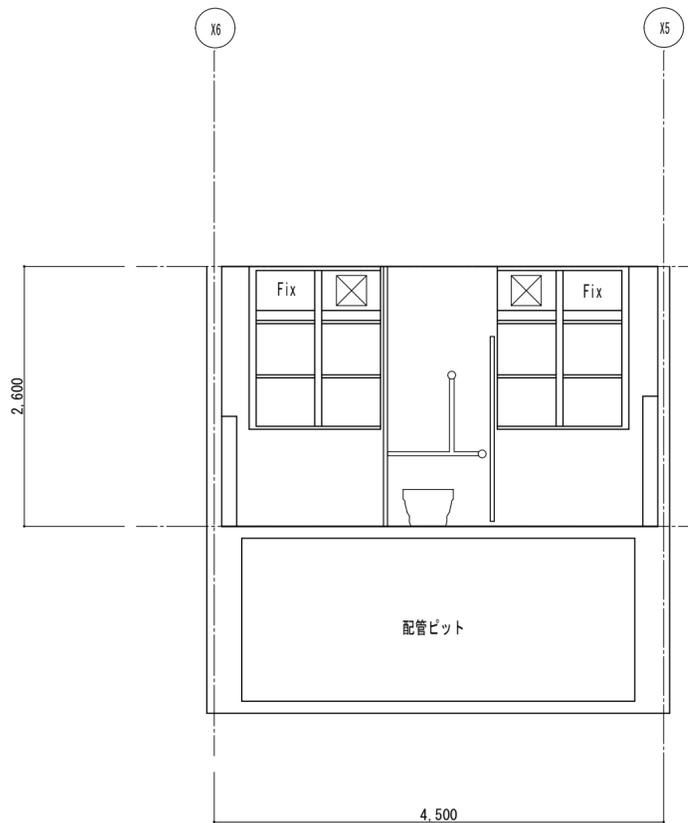
生徒用女子便所 B面



生徒用男子便所 B面



生徒用男女共通 A面



生徒用男女共通 C面

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

改修前トイレ1階~3階(生徒用)展開図

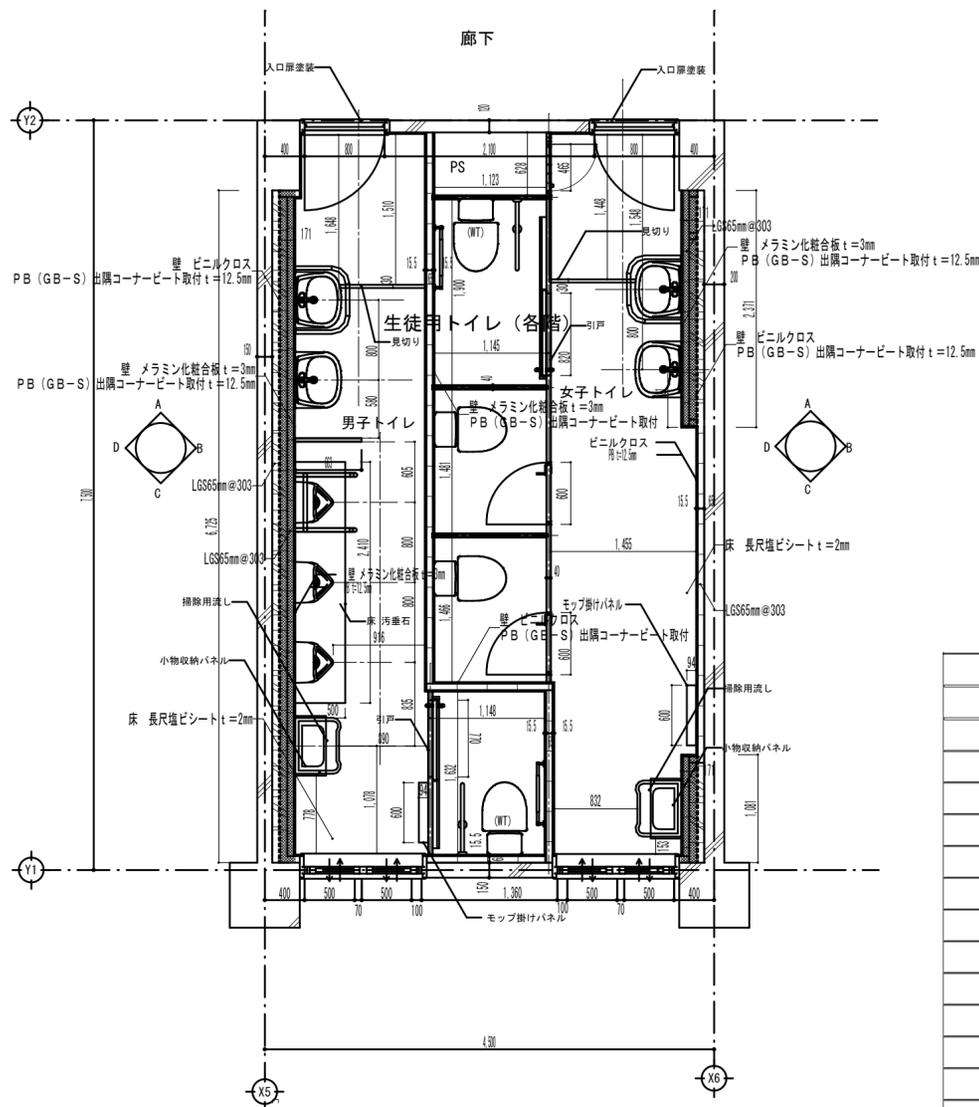
DW.	CK.	NO.	DATE
		A-18	03-09

設計・整理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

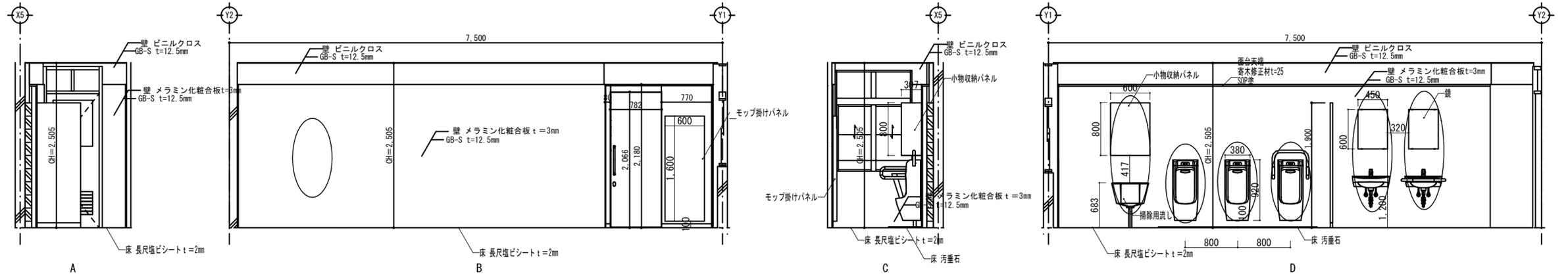


凡例
 面台天端
 香木集成材 t=25
 SOP塗を示す

1階～3階生徒用トイレ平面詳細図 1/50

機器参考品番			
機器	品番	メーカー	備考
洋便器	CS597BS	TOTO	蓋なし
タンク	SH596BAYR (蓋固定)	TOTO	
ウォシュレット	TCF5534AU	TOTO	ウォシュレット(WT:表示)各トイレに1か所
ウォームレット	TCF116	TOTO	その他はウォームレットとする
タッチスイッチ	HE30JKR (電池式)	TOTO	
紙巻器	YH702	TOTO	
小便器	UFS900R	TOTO	
手洗器	L210C	TOTO	水栓はレバーハンドル、自動水栓各1とする
掃除用流し	SK22A	TOTO	
小物収納パネル	UTR421S	TOTO	
モップ掛けパネル	UTR422S	TOTO	
L型手摺	T114CL9R	TOTO	
P型手摺	T114CP22R	TOTO	
小便器用手摺	T114CU22R	TOTO	
洗面器・手洗器用手摺	2460-34	KAKUDA I	
鏡	YM4560F	TOTO	450×600 (生徒用)
大型化粧鏡 (瑞穂中職員トイレ)	フリーサイズ大型鏡	TOTO	1,550×1,050

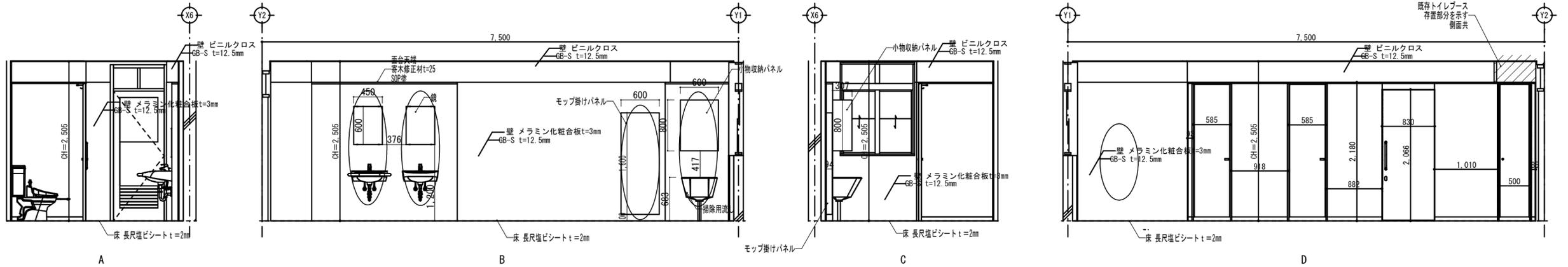
生徒用男子トイレ仕上表	
天井	化粧石膏ボード t=9.5mm
廻縁	塩ビ製廻縁
壁	ビニルクロス
	メラミン化粧合板 t=3mm
巾木	ソフト巾木H=60
床	見切り 長尺塩ビシート t=2mm
備考	壁：出隅部 塩ビ製ジョイナー



瑞穂中生徒用男子トイレ1階～3階 展開図



生徒用女子トイレ仕上表	
天井	化粧石膏ボード t=9.5mm
廻縁	塩ビ製廻縁
壁	ビニルクロス
	メラミン化粧合板 t=3mm
巾木	ソフト巾木H=60
床	見切り 長尺塩ビシート t=2mm
備考	壁：出隅部 塩ビ製ジョイナー



瑞穂中生徒用女子トイレ1階～3階 展開図

注記 GB-Sの出隅・入隅にはジョイナーを取り付けること

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

1:50 SCALE

SCALE

改修後トイレ1階～3階（生徒用）展開図

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

DW.

CK.

NO.

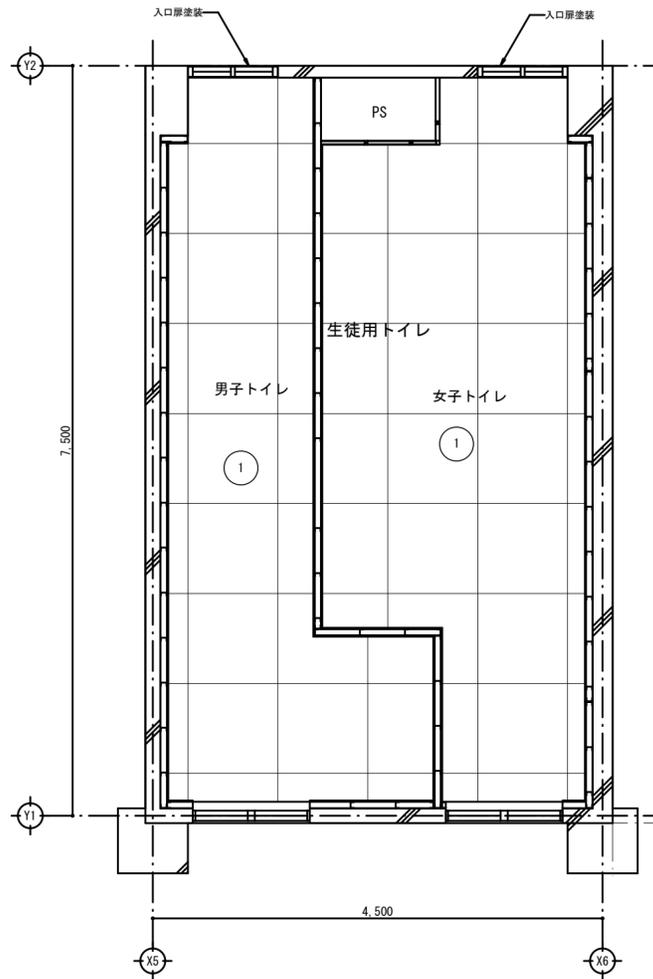
DATE

A-23

03-09

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



天井伏図仕上表
① 化粧石膏ボード9.5 900角

瑞穂中生徒用トイレ天井伏図各階共通 1/50

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

1 : 5 0 SCALE SCALE SCALE

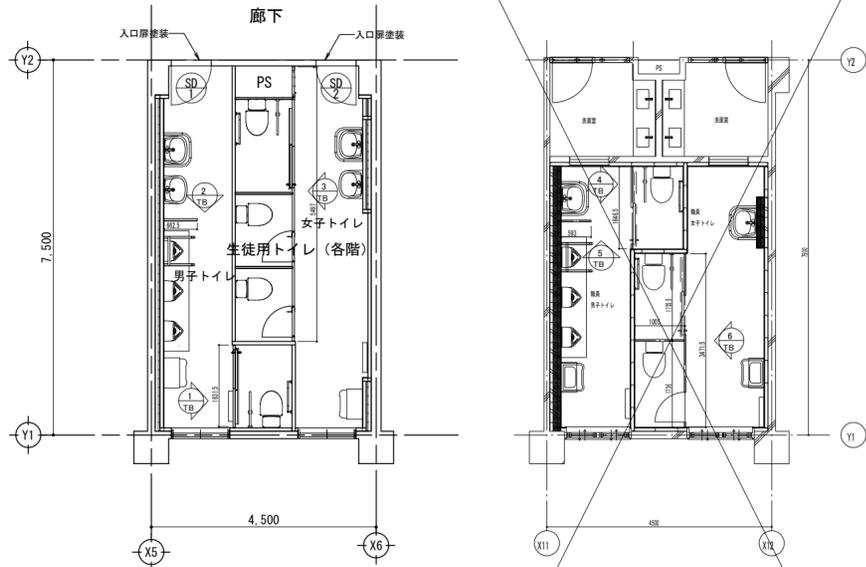
野中建築設計事務所

改修後トイレ1階~3階(生徒用)天井伏図

1級建築士第147931号 野中健一

DW.	CK.	NO.	DATE
		A - 2 5	0 3 - 0 9

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



各階生徒用建具配置図 1/100

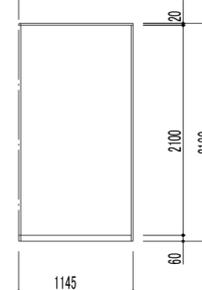
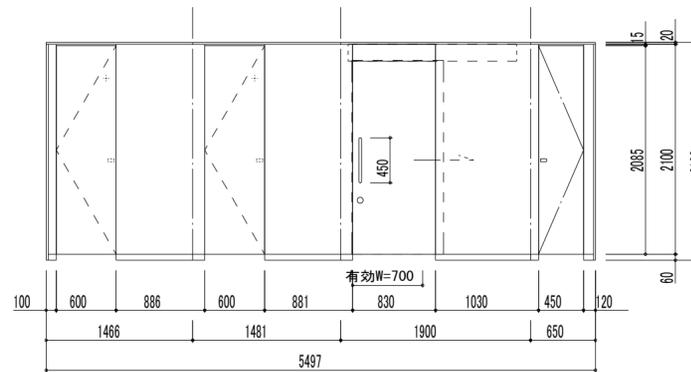
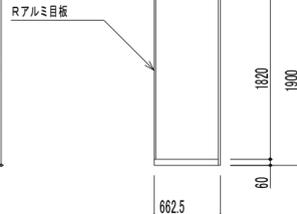
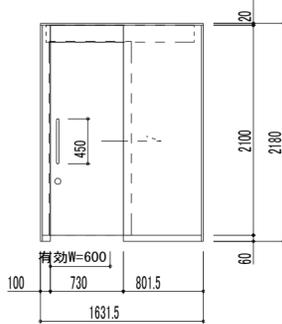
職員用建具配置図 1/100

【別途工事】

1 TB 3ヶ所

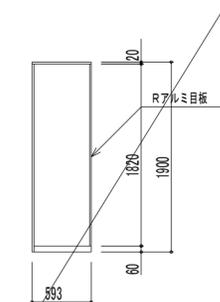
2 TB 3ヶ所

3 TB 3ヶ所

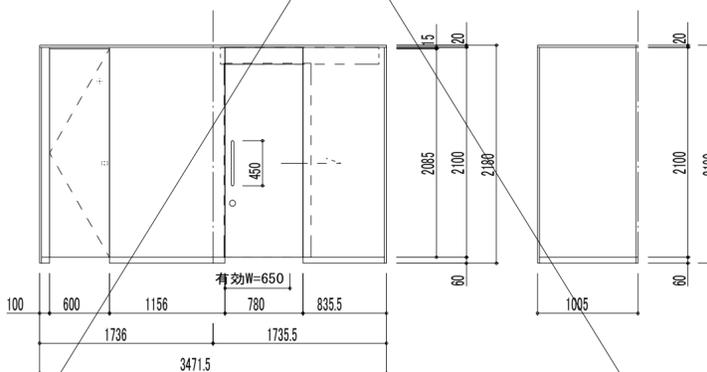


4 TB

5 TB



6 TB



TB姿図 1/50

【別途工事】

◇仕様表

(小松ウオール サニティTB-GPRタイプ同等品可)

項目	部材	材 料 (板厚mm)
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地:パーティクルボード)
	芯材	ペーパーコア
	目板/戸当り	アルミ押出材 (アルマイトクリア処理仕上)
付属品	巾木/床レール	ステンレス 0.8mm <ヘアライン仕上>
	笠木	アルミ押出材 (アルマイトクリア処理仕上)
	壁面レール/コーナーカバー	アルミ押出材 (アルマイトクリア処理仕上)
	ヒンジ	中心吊グレティヒンジ
	ロック	スライドロックSK
	その他金物	戸当り帽子掛けSK
カーム	パネル表面材(ドアパネル)	高圧メラミン樹脂化粧板(下地: MDF)
	芯材(ドアパネル)	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ベース板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm <焼付塗装仕上>
	ロック	非常解錠付樹脂製サムターン<SLB-20SN>
取手	ステンレス鏡面ハンドルφ25	

符号・名称・性能	SP1	片開き-金属 (下部ガラリ)	なし	SP2	片開き-金属 (下部ガラリ)	なし
姿図	※塗装のみ実施		※塗装のみ実施			
取付階・室名・箇所数	生徒用トイレ (1~3階)		3		生徒用トイレ (1~3階)	
建具W	800	2,500	35	80	800	2,500
建具H						
扉見込						
枠見込						
建具材質	鋼板		アクリル系樹脂塗装		鋼板	
建具仕上	鋼板		アクリル系樹脂塗装		鋼板	
ガラス種類	鋼板		アクリル系樹脂塗装		鋼板	
ガラス厚	鋼板		アクリル系樹脂塗装		鋼板	
附属金物	附属金物一式		附属金物一式		附属金物一式	
備考	ケレン・錆止め・タッチアップ・プライマー含む。握り玉、ドアチェックあり。		ケレン・錆止め・タッチアップ・プライマー含む。握り玉、ドアチェックあり。		ケレン・錆止め・タッチアップ・プライマー含む。握り玉、ドアチェックあり。	

建具表 1/50

注記 LGS65スタッドφ303とする

令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

1:100

1:50 SCALE

1:100 SCALE

改修後建具配置図

改修後建具表各階共通

改修後TB姿図

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

DW.

CK.

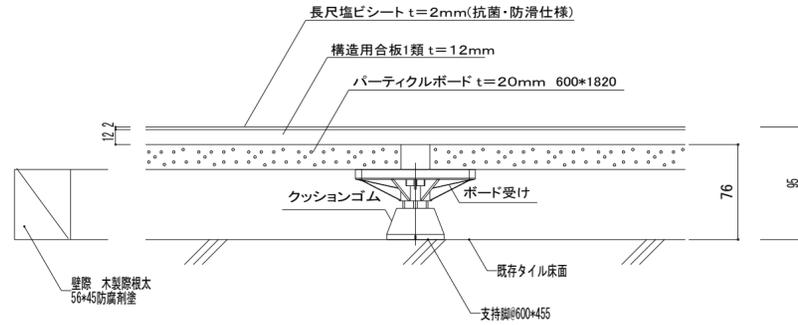
NO.

DATE

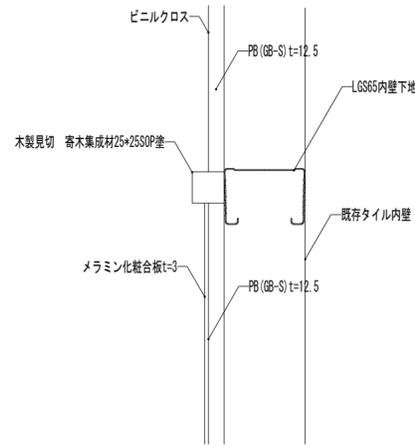
A-27

03-09

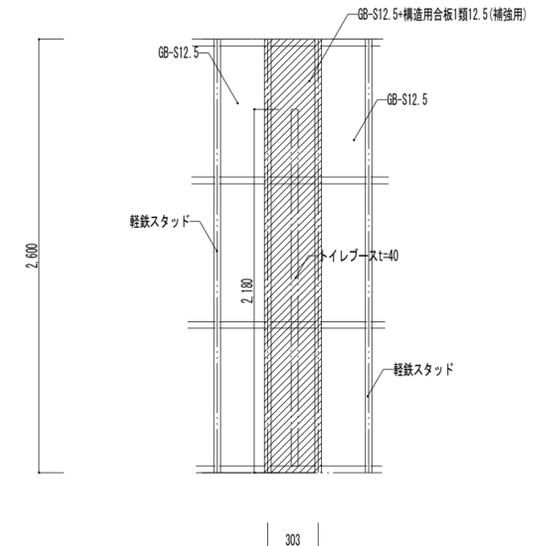
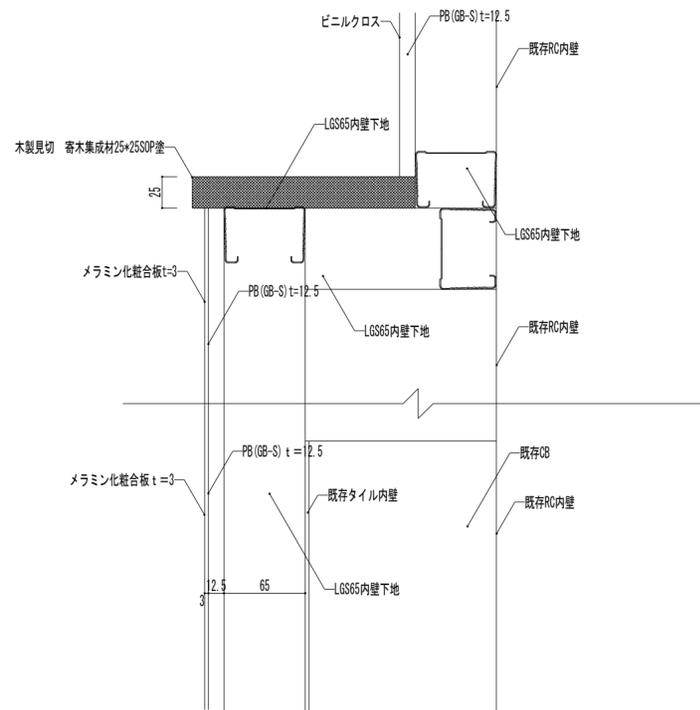
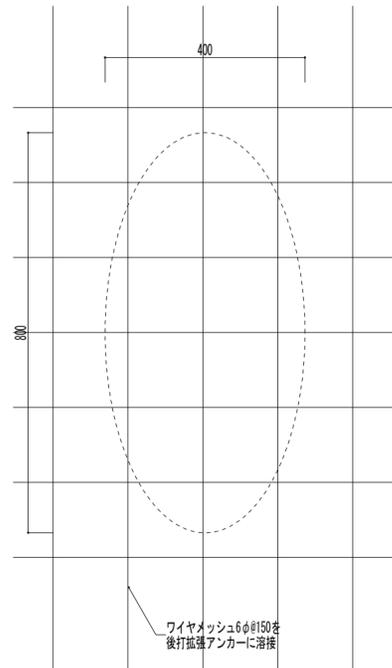
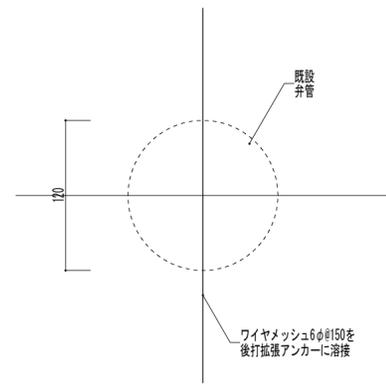
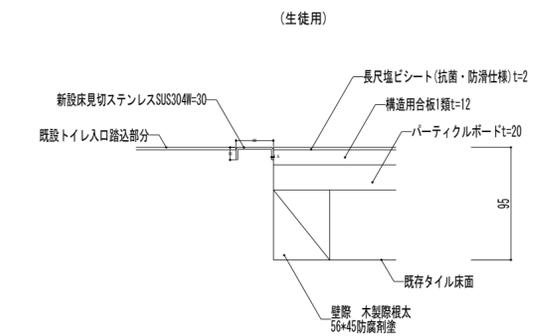
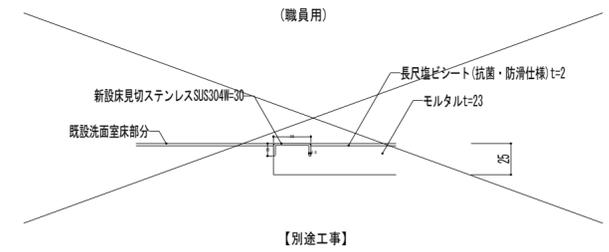
~文教施設用二重床システム~
【MPフロア Pタイプ (保育園・幼稚園・小学校・中学校 用)】

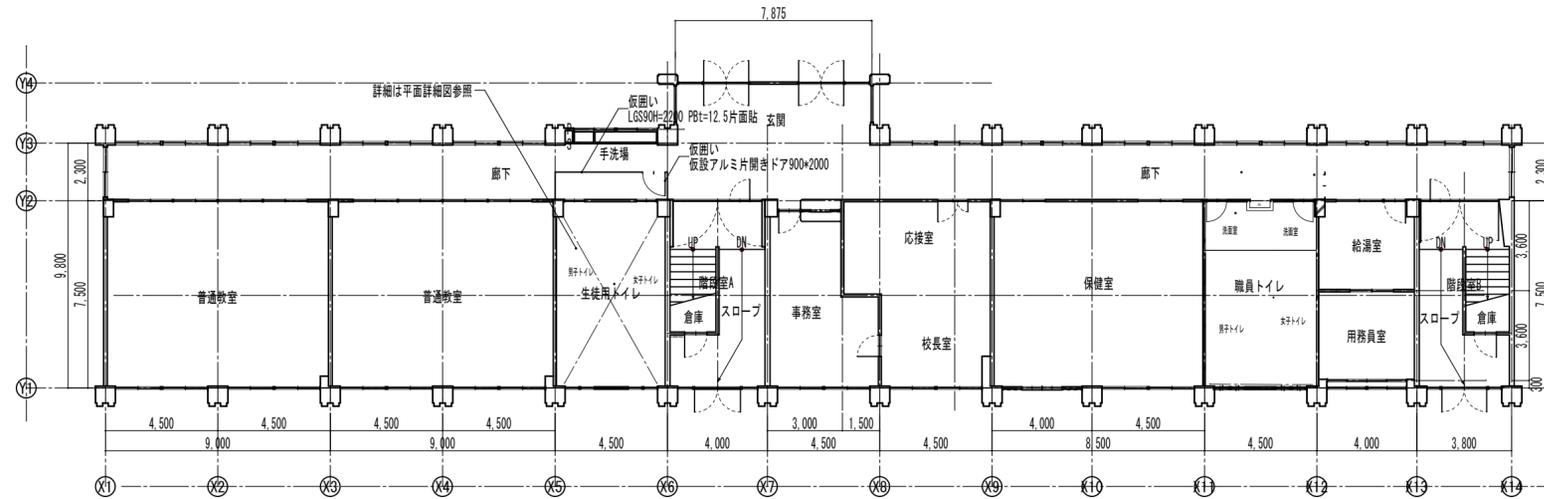


注記 現状の高低差に合わせ

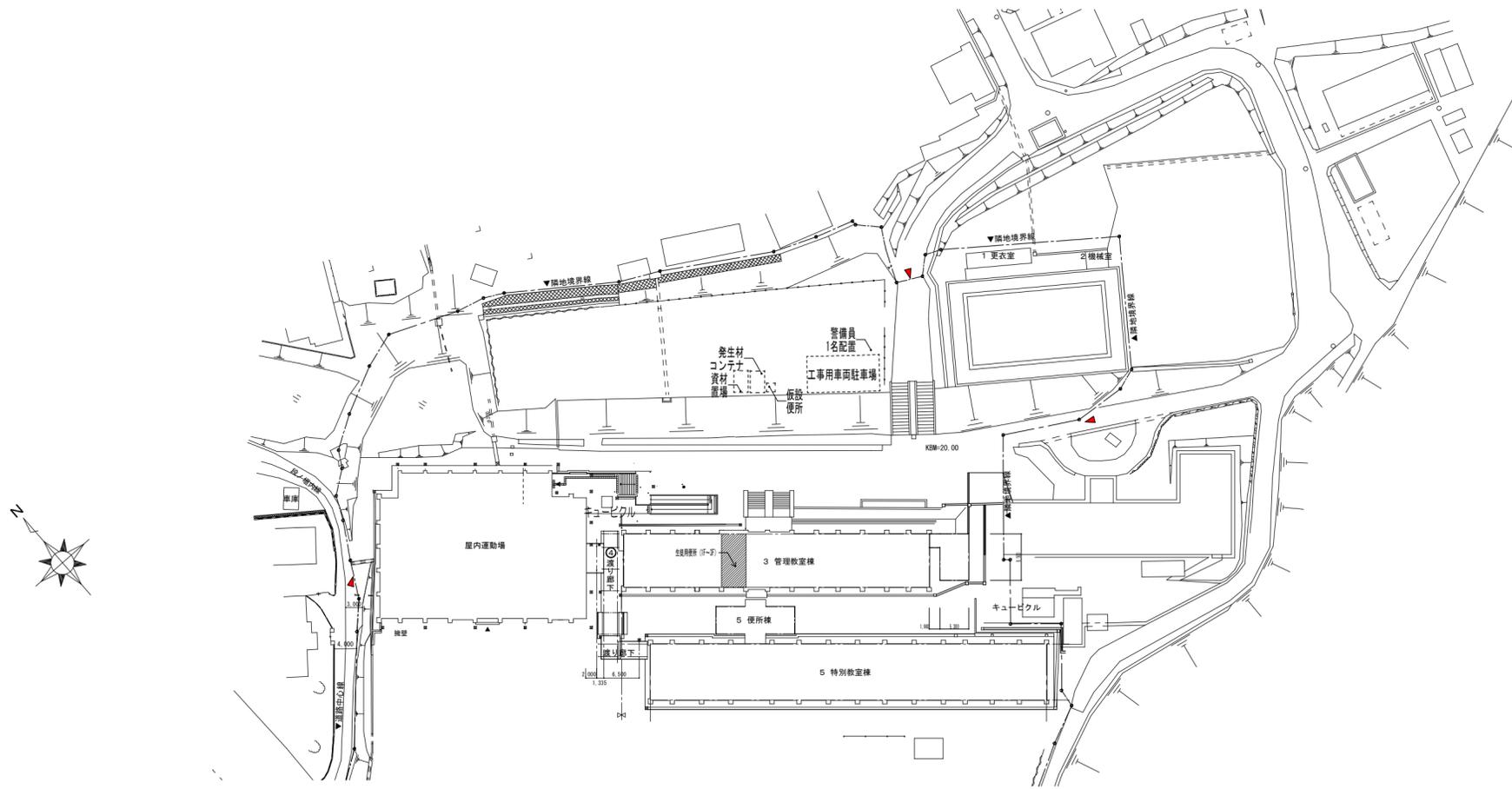


注記 木製見切の巾は、既存タイル貼面の出巾に応じて変化させる。平面詳細図参照





1階～3階仮設計画図



外部仮設計画図

<p>令和3年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事 設計図</p>				<p>設計・監理 一級建築士事務所</p>	
<p>1階～3階仮設計画図</p>		<p>屋外仮設計画図</p>		<p>野中建築設計事務所</p>	
<p>1:200 SCALE</p>		<p>1:600 SCALE</p>		<p>1級建築士第147931号 野中健一</p>	
<p>DW.</p>	<p>CK.</p>	<p>NO.</p> <p>A-29</p>	<p>DATE</p> <p>03-09</p>	<p>〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20</p> <p>TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408</p>	